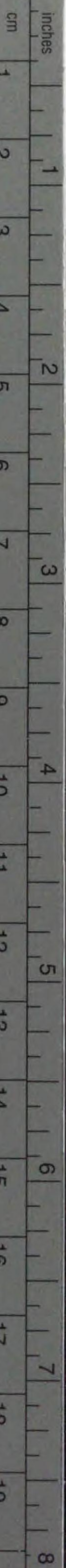


Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

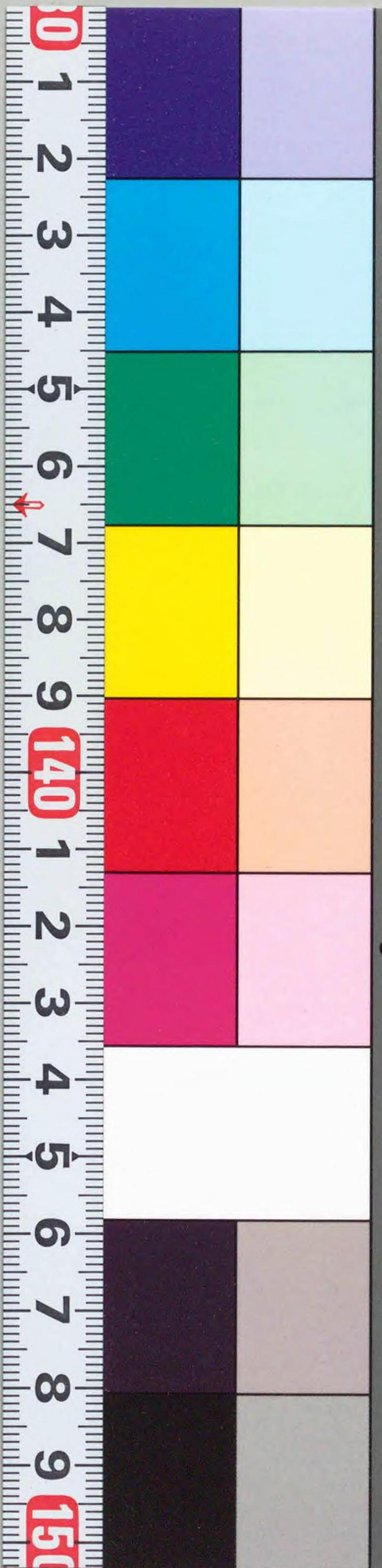
A 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak



2.3.15

524

495

C4
01

千九百二十五年第七回國際勞働總會
ニ於テ採擇セラレタル條約案及勸告

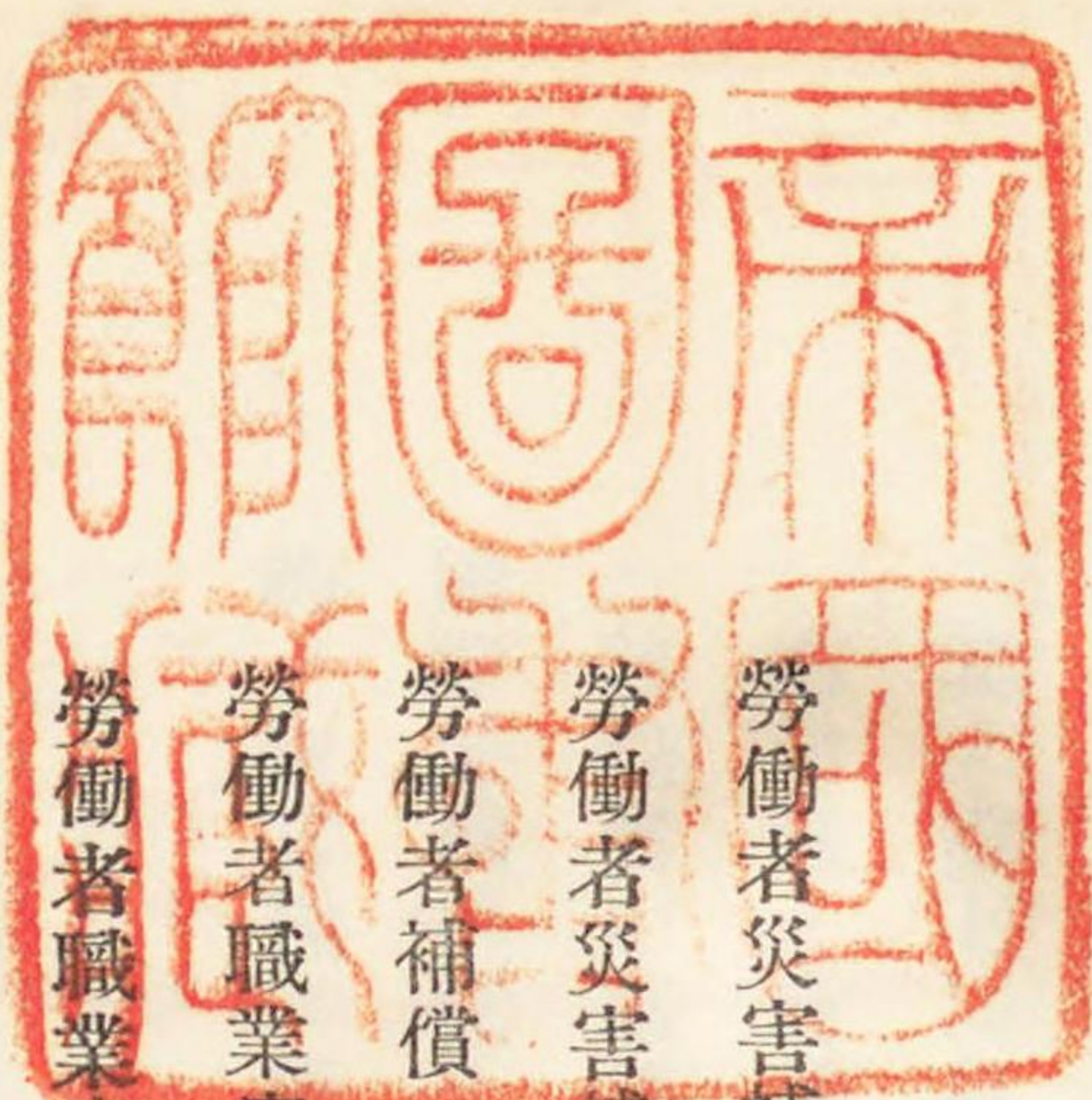


千九百二十五年第七回國際勞働總會
ニ於テ採擇セラレタル條約案及勸告

外務省寄贈本

目次

勞働者災害補償ニ關スル條約案……………一
 勞働者災害補償ノ最小限度ノ規模ニ關スル勸告……………九
 勞働者補償ニ付テノ爭議ノ裁判ニ關スル勸告……………二五
 勞働者職業病補償ニ關スル條約案……………二五
 勞働者職業病補償ニ關スル勸告……………二五
 勞働者災害補償ニ付テノ内外人勞働者ノ均等待遇ニ關スル條約案……………二五
 勞働者災害補償ニ付テノ内外人勞働者ノ均等待遇ニ關スル勸告……………三一
 麵麩燒工場ニ於ケル夜間作業ニ關スル條約案……………三五



15. 10. 20
寄贈



目次

Table of contents listing various sections and their page numbers, including 'International Labour Office' and 'Convention on the Protection of the Rights of the Child'.



労働者災害補償ニ關スル條約案

國際聯盟ノ國際労働機關ノ總會ハ

國際労働事務局ノ理事會ニ依リ「ジュネーヴ」ニ招集セラレ千九百二十五年五月十九日ヲ以テ

其ノ第七回會議ヲ開催シ

右會議ノ會議事項ノ第一項目ノ一部タル労働者災害補償ニ關スル提案ヲ採擇ヲ決議シ且

該提案ハ國際條約案ノ形式ニ依ルベキモノナルコトヲ決定シ

國際労働機關ノ締盟國ニ依リ批准セララルガ爲「ヴェルサイユ」條約ノ第十三編及他ノ平和諸條約ノ對當編ノ規定ニ從ヒ千九百二十五年六月十日左ノ條約案ヲ採擇ス

第一條

本條約ヲ批准スル國際労働機關ノ各締盟國ハ産業災害ニ因リ身體ノ傷害ヲ受ケタル労働者又ハ其ノ被扶養者ガ本條約ニ依リ定メラルル條件ト少クトモ均等ナル條件ヲ以テ補償セララルベキヲ確保スルコトヲ約ス

本條約ニ關スル第一條ノ二項目條約ニ依リ、對費ノ事業、企業又ハ事業場ニ對シテ、制限ヲ設ケルハ、其ノ被扶養者ニ對シテ、補償セラルベキヲ確保スルコトヲ約ス

二
労働者補償ニ關スル法令及規則ハ公私一切ノ性質ノ事業、企業又ハ事業場ニ依リ使用セラルル労働者、使用人又ハ徒弟ニ之ヲ適用スベシ

尤モ締盟國ハ左記ノ者ニ關シ其ノ必要ト認ムル例外ヲ當該國ノ法制ニ於テ設クルコトヲ得
(イ) 臨時的労働ニ従事シ且使用者ノ職業又ハ業務ノ目的以外ノ爲ニ使用セラルル者
(ロ) 家内労働者
(ハ) 使用者ノ家ニ屬スル者ニシテ専ラ使用者ノ爲ニ労働シ且其ノ家屋内ニ居住スル者
(ニ) 非筋肉労働者ニシテ其ノ報酬ガ當該國ノ法令又ハ規則ニ依リ定メラルル制限ヲ超ユル者

第三條

本條約ハ左記ノ者ニ之ヲ適用セザルベシ

- (一) 海員及漁夫（此等ノ者ニ付テハ將來ノ條約ニ依リ規定ヲ設クルモノトス）
- (二) 本條約ノ條件ヨリ不利ナラザル條件ヲ有スル特殊制度ノ適用ヲ受クル者

第四條

本條約ハ農業ニ之ヲ適用セザルベシ農業ニ付テハ國際労働總會ニ依リ其ノ第二回會議ニ於テ採擇

セラレタル農業ニ於ケル労働者災害補償ニ關スル條約其ノ效力ヲ保有ス

第五條

傷害ノ結果終身ノ労働不能又ハ死亡ニ至リタル場合ニ於テ該被害労働者又ハ其ノ被扶養者ニ支拂フベキ補償ハ定期金ノ形式ヲ以テ之ヲ支拂フベシ但シ權限アル機關ガ右補償ノ適當ニ利用セラルベキ保障アリト認ムルトキハ其ノ全部又ハ一部ヲ一時金トシテ支拂フコトヲ得

第六條

労働不能ノ場合ニ於テハ補償ハ關係アル使用者、災害保險機關又ハ疾病保險機關ノ何レニ依リ支拂ハルルヲ問ハズ遅クトモ災害後第五日ヨリ支拂ハルベシ

第七條

傷害ノ結果被害労働者ガ常時他人ノ手助ケヲ要スルガ如キ性質ノ労働不能ニ至リタル場合ニ於テハ割増補償ヲ給與スベシ

第八條

各國ノ法令又ハ規則ハ必要ト認メララルル監督ノ措置及審査ノ方法ヲ定ムベシ

第九條

被害労働者ハ醫療上ノ扶助並災害ノ結果必要ト認めラルル外科上及藥劑上ノ扶助ヲ受クル權利ヲ有スベシ右ノ扶助ノ費用ハ使用者、災害保險機關又ハ疾病若ハ癱疾保險機關ニ依リ支辨セラルベシ

四

第十條

被害労働者ハ使用者又ハ保險者ヨリ必要ト認めラルル義肢及外科的補助器ノ給與及通常ノ取替ヲ受クル權利ヲ有スベシ但シ各國ノ法令又ハ規則ハ特別ノ事情アル場合ニ於テハ右ノ義肢及外科的補助器ノ給與及取替ニ代ヘテ該補助器ノ給與及取替ノ概算費用ニ相當スル金額ヲ被害労働者ニ與フルコトヲ許容スルコトヲ得右ノ金額ハ補償額ノ定メラレ又ハ變更セラルル時ニ於テ之ヲ決定スベキモノトス

各國ノ法令又ハ規則ハ補助器ノ取替ニ關スル濫用ヲ防止シ又ハ前項ノ割増補償ガ其ノ目的ノ爲利用セラルルコトヲ確保スル爲必要ナル監督ノ措置ヲ定ムベシ

第十一條

各國ノ法令又ハ規則ハ使用者又ハ保險者ノ支拂不能ノ場合ニ於テ産業災害ニ因リ身體ノ傷害ヲ受ケタル労働者ニ、又ハ死亡ノ場合ニハ其ノ被扶養者ニ、補償ノ支拂ヲ凡テノ事情ノ下ニ於テ確保

スル爲當該國ノ事情ヲ參酌シタル上最モ適當ト認めラルル規定ヲ設クベシ

第十二條

「ヴェルサイユ」條約ノ第十三編及他ノ平和諸條約ノ對當編ニ定ムル條件ニ依ル本條約ノ正式批准ハ登録ノ爲國際聯盟事務總長ニ之ヲ通告スベシ

第十三條

本條約ハ事務總長ガ國際労働機關ノ締盟國中ノ二國ノ批准ヲ登録シタル日ヨリ效力ヲ發生スベシ本條約ハ該事務局ニ其ノ批准ヲ登録シタル締盟國ノミヲ拘束スベシ爾後本條約ハ他ノ何レノ締盟國ニ付テモ右事務局ニ其ノ批准ヲ登録シタル日ヨリ效力ヲ發生スル

モノトス

第十四條

國際労働機關ノ締盟國中ノ二國ガ國際聯盟事務局ニ本條約ノ批准ノ登録ヲ爲シタルトキハ事務總長ハ國際労働機關ノ一切ノ締盟國ニ右ノ旨ヲ通告スベシ事務總長ハ爾後該機關ノ他ノ締盟國ノ通告シタル批准ノ登録ヲ一切ノ締盟國ニ同様ニ通告スベシ

第十五條

五

本條約ヲ批准スル各締盟國ハ千九百二十七年一月一日迄ニ第一條、第二條、第三條、第四條、第五條、第六條、第七條、第八條、第九條、第十條及第十一條ノ規定ヲ實施シ且右規定ヲ實施スルニ必要ナルベキ措置ヲ執ルコトヲ約ス尤モ第十三條ノ規定ニ從フモノトス

第十條

本條約ヲ批准スル國際労働機關ノ各締盟國ハ「ヴェルサイユ」條約ノ第四百二十一條ノ規定及他ノ平和諸條約ノ對當條項ノ規定ニ依リ其ノ殖民地、屬地及保護國ニ之ヲ適用スルコトヲ約ス

第十一條

本條約ヲ批准シタル締盟國ハ本條約ノ最初ノ效力發生ノ日ヨリ五年ノ期間滿了後ニ於テ國際聯盟事務總長宛登錄ノ爲ニスル通告ニ依リ之ヲ廢棄スルコトヲ得右ノ廢棄ハ該事務局ニ登錄アリタル日以後一年間ハ其ノ效力ヲ生ゼズ

第十二條

國際労働事務局ノ理事會ハ少クトモ十年ニ一回本條約ノ施行ニ關スル報告ヲ總會ニ提出スベク且其ノ改正又ハ變更ニ關スル問題ヲ總會ノ會議事項ニ掲グベキヤ否ヤヲ審議スベシ

第十三條

本條約ハ佛蘭西語及英吉利語ノ本文ヲ以テ共ニ正文トス
前記ハ國際労働機關ノ總會ニ依リ、「ジュネーヴ」ニ於テ開催セラレ且千九百二十五年六月十日閉會ヲ宣セラレタル其ノ第七回會議中適法ニ採擇セラレタル條約案ノ正文ナリトス
右證據トシテ千九百二十五年六月二十四日署名ス

總會議長 ドクトル、エドヴァルド、ベネシユ

國際労働事務局長 アルベール、トーマ

本會は、労働者補償ノ最小限度ノ規模ニ關スル勸告ヲ採擇シ、
 其ノ結果労働不能ニ至リタル場合ニ於テハ各國ノ法令又ハ規則ハ以下指示スル率ヨリ低カラザ
 一、労働者補償ノ最小限度ノ規模ニ關スル勸告ヲ採擇シ、
 其ノ結果労働不能ニ至リタル場合ニ於テハ各國ノ法令又ハ規則ハ以下指示スル率ヨリ低カラザ
 一、労働者補償ノ最小限度ノ規模ニ關スル勸告ヲ採擇シ、
 其ノ結果労働不能ニ至リタル場合ニ於テハ各國ノ法令又ハ規則ハ以下指示スル率ヨリ低カラザ
 一、労働者補償ノ最小限度ノ規模ニ關スル勸告ヲ採擇シ、
 其ノ結果労働不能ニ至リタル場合ニ於テハ各國ノ法令又ハ規則ハ以下指示スル率ヨリ低カラザ
 一、労働者補償ノ最小限度ノ規模ニ關スル勸告ヲ採擇シ、
 其ノ結果労働不能ニ至リタル場合ニ於テハ各國ノ法令又ハ規則ハ以下指示スル率ヨリ低カラザ

労働者補償ノ最小限度ノ規模ニ關スル勸告

國際聯盟ノ國際労働機關ノ總會ハ
 國際労働事務局ノ理事會ニ依リ「ジュネーヴ」ニ招集セラレ千九百二十五年五月十九日ヲ以テ其
 ノ第七回會議ヲ開催シ
 右會議ノ會議事項ノ第一項目ノ一部タル労働者補償ノ最小限度ノ規模ニ關スル提案ノ採擇ヲ決
 議シ且
 該提案ハ勸告ノ形式ニ依ルベキモノナルコトヲ決定シ
 國際労働機關ノ締盟國ヲシテ立法其ノ他ノ方法ニ依リ之ガ實現ヲ爲サシムル目的ヲ以テ考慮セシ
 ムル爲「ヴェルサイユ」條約ノ第十三編及他ノ平和諸條約ノ對當編ノ規定ニ從ヒ千九百二十五年六
 月十日左ノ勸告ヲ採擇ス
 總會ハ國際労働機關ノ各締盟國ガ左ノ原則及規準ヲ考慮スベキコトヲ勸告ス
 一、労働者補償ノ最小限度ノ規模ニ關スル勸告ヲ採擇シ、
 其ノ結果労働不能ニ至リタル場合ニ於テハ各國ノ法令又ハ規則ハ以下指示スル率ヨリ低カラザ
 九

ル率ヲ以テ補償ヲ支拂フコトヲ定ムベシ

(一) 終身ノ全部労働不能ノ場合ニ於テハ當該労働者ノ一年ノ労働所得ノ三分ノ二ト同額ノ定期金

(二) 終身ノ一部労働不能ノ場合ニ於テハ終身ノ全部労働不能ノ場合ニ支拂ハルベキ定期金ヲ基礎トシ傷害ニ因リ生ジタル労働所得能力ノ減少ニ應ジテ計算セラレタル其ノ定期金ノ割合

(三) 一時ノ全部労働不能ノ場合ニ於テハ補償ノ目的ノ爲計算セラレタル労働者ノ基礎労働所得ノ三分ノ二ト同額ノ毎日又ハ毎週ノ定期金

(四) 一時ノ一部労働不能ノ場合ニ於テハ一時ノ全部労働不能ノ場合ニ於テ支拂ハルベキ毎日又ハ毎週ノ定期金ヲ基礎トシ傷害ニ因リ生ジタル労働所得能力ノ減少ニ應ジテ計算セラレタル其ノ定期金ノ割合

補償ガ一時金トシテ支拂ハルル場合ニ於テハ其ノ金額ハ前項ニ從ヒ支拂ハルベキ定期金ノ現價ヲ下ルコトヲ得ズ

第二

労働者ガ常時他人ノ手助ケヲ要スル傷害ノ場合ニ於テハ右労働者ニハ割増補償ヲ支拂フベク、右ハ終身ノ全部労働不能ノ場合ニ支拂フベキ額ノ半額ヲ下ルコトヲ得ズ

第三

傷害ノ結果死亡ニ至リタル場合ニ於テハ補償ノ目的ノ爲被扶養者ト認めラルル權利ヲ有スル者ニハ少クトモ左記ノ者ヲ包含セシムベシ

(一) 死亡者ノ夫又ハ妻
(二) 死亡者ノ子ニシテ十八歳未満ノ者又ハ十八歳以上ナルモ身體若ハ精神ノ耗弱ノ爲労働所得能力ナキ者

(三) 死亡者ノ直系尊屬(父母又ハ祖父母)ニシテ生計ノ手段ヲ有セズ且死亡者ノ扶養ヲ受ケ又ハ死亡者ガ其ノ生計ヲ扶クルノ義務ヲ負ヒタル者

(四) 死亡者ノ孫及兄弟姉妹ニシテ十八歳未満又ハ十八歳以上ナルモ身體若ハ精神ノ耗弱ノ爲労働所得能力ナク且孤兒ナル者又ハ其ノ父母生存セルモ之ヲ給養スルノ能力ナキ者

補償ガ定期金ノ方法ニ依リ支拂ハルル場合ニ於テハ一切ノ被扶養者ニ支拂ハルベキ年額ノ最高總額ハ死亡者ノ一年ノ労働所得ノ三分ノ二ヲ下ルコトヲ得ズ

補償が一時金トシテ支拂ハルル場合ニ於テハ一切ノ被扶養者ニ支拂ハルベキ最高額ハ死亡者ノ一年ノ勞働所得ノ三分ノ二ト同額ノ定期金ノ現價ヲ下ルコトヲ得ズ

第五條 第四

被害勞働者ノ職業再教育ハ當該國ノ法令又ハ規則ノ最モ適當ト認ムル方法ニ依リ之ヲ定ムベシ政府ハ右ノ再教育ニ從事スル施設ヲ獎勵スベシ

前記ハ國際勞働機關ノ總會ニ依リ「ジュネーヴ」ニ於テ開催セラレ且千九百二十五年六月十日閉會ヲ宣セラレタル其ノ第七回會議中適法ニ採擇セラレタル勸告ノ正文ナリトス

右證據トシテ千九百二十五年六月二十四日署名ス

總會 議長 ドクトル、エドヴァルド、ベネシユ

國際勞働事務局長 アルベール、トーマ

（一） 諸國ノ代表ハ其ノ國ニ於テハ勞働者ノ利益ヲ保護スル為メニ必要ナル法律ヲ制定スルコトヲ誓ヒ且其ノ國ニ於テハ勞働者ノ利益ヲ保護スル為メニ必要ナル法律ヲ制定スルコトヲ誓ヒ且其ノ國ニ於テハ勞働者ノ利益ヲ保護スル為メニ必要ナル法律ヲ制定スルコトヲ誓ヒ

勞働者補償ニ付テノ爭議ノ裁判ニ關スル勸告

國際聯盟ノ國際勞働機關ノ總會ハ

國際勞働事務局ノ理事會ニ依リ「ジュネーヴ」ニ招集セラレ千九百二十五年五月十九日ヲ以テ其ノ第七回會議ヲ開催シ

右會議ノ會議事項ノ第一項目ノ一部タル勞働者補償ニ付テノ爭議ノ裁判ニ關スル提案ノ採擇ヲ決議シ且

該提案ハ勸告ノ形式ニ依ルベキモノナルコトヲ決定シ

國際勞働機關ノ締盟國ヲシテ立法其ノ他ノ方法ニ依リ之ガ實現ヲ爲サシムル目的ヲ以テ考慮セシムル爲「ヴェルサイユ」條約ノ第十三編及他ノ平和諸條約ノ對當編ノ規定ニ從ヒ千九百二十五年六月十日左ノ勸告ヲ採擇ス

勞働者補償ニ關スル爭議ハ當ニ法令又ハ規則ノ解釋ノ如何ニ依ルノミナラズ勞働狀態ニ關スル充分ナル智識ヲ必要トスル職業的性質ノ諸問題例ヘバ企業ノ性質、企業ニ固有ナル危險ノ種類、勞働者ノ作業ト災害トノ關係、勞働所得算出ノ方法、勞働不能ノ程度、勞働者ガ他ノ職業ニ適應ス

ルノ能否等ニ關スル諸問題ノ如何ニ依ルモノナルニ因リ
勞働者及使用者ハ此等ノ諸問題ニ關シ必要ナル智識ト經驗トヲ有シ且右兩者ガ補償事件ニ關スル
爭議ヲ決定スベキ裁判所ノ構成員トナリ又ハ之ト協力スルトキハ該爭議ハ一層衡平ニ解決セラル
ベキニ因リ

且現在ノ司法制度ヨリ根本的ニ離ルルコトナクシテ使用者及勞働者ト右裁判所トノ協力ヲ（構成
員トシテ又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ）確保スルコトハ多數ノ國ニ於テ可能ナルニ因リ
總會ハ國際勞働機關ノ各締盟國ガ左ノ原則及規準ヲ考慮スベキコトヲ勸告ス

第一

勞働者補償ニ關スル凡テノ爭議ハ審判者トシテ使用者團體及勞働者團體ノ各自ニ依リ任命セラレ
若ハ右兩團體ノ指名ニ基キ任命セラレタル使用者及勞働者ノ各同數ノ代表者ヲ（正規ノ裁判官ヲ
加ヘ若ハ加ヘズシテ）包含スル特別裁判所若ハ仲裁委員會又ハ他ノ社會機關ヨリ選拔セラレ若ハ
使用者及勞働者各自ノ選舉團體ニ依リ選舉セラレタル使用者及勞働者ノ各代表者ヲ包含スル特別
裁判所若ハ仲裁委員會ニ依リ處理セララルヲ可トスベキコト

第二

勞働者補償ニ關スル爭議ガ普通ノ司法裁判所ニ依リ處理セララルトキハ該裁判所ハ爭議ガ職業的
性質ノ問題就中勞働不能ノ程度ノ問題ヲ包含スル一切ノ場合ニ於テハ關係當事者ノ一方ノ要求ア
ルトキハ専門家トシテ使用者及勞働者ノ各代表者ノ意見ヲ徵スルヲ要スルコト

前記ハ國際勞働機關ノ總會ニ依リ「ジュネーヴ」ニ於テ開催セラレ且千九百二十五年六月十日閉會
ヲ宣セラレタル其ノ第七回會議中適法ニ採擇セラレタル勸告ノ正文ナリトス
右證據トシテ千九百二十五年六月二十四日署名ス

總會議長 ドクトル、エドヴァルド、ベネシユ

國際勞働事務局長 アルベール、トーマ

本條約は一九二五年六月二十日署名の「ジュネーヴ」ニ招集セラレ千九百二十五年五月十九日ヲ以テ其ノ第七回會議ヲ開催シ

右會議ノ會議事項ノ第一項目ノ一部タル労働者職業病補償ニ關スル提案ノ採擇ヲ決議シ且該提案ハ國際條約案ノ形式ニ依ルベキモノナルコトヲ決定シ

國際労働機關ノ締盟國ニ依リ批准セラルルガ爲「ヴェルサイユ」條約ノ第十三編及他ノ平和諸條約ノ對當編ノ規定ニ從ヒ千九百二十五年六月十日左ノ條約案ヲ採擇ス

第一條

本條約ヲ批准スル國際労働機關ノ各締盟國ハ職業病ニ因リ労働不能ト爲リタル労働者ニ、又ハ右疾病ノ爲死亡シタルトキハ其ノ被扶養者ニ、産業災害補償ニ關スル當該國ノ法制ノ一般原則ニ從ヒ補償ヲ支拂フベキヲ定ムルコトヲ約ス

右ノ補償ノ率ハ産業災害ニ因リ生ズル傷害ニ關スル當該國ノ法制ノ定ムル率ヲ下ルコトヲ得ズ、

労働者職業病補償ニ關スル條約案

國際聯盟ノ國際労働機關ノ總會ハ

國際労働事務局ノ理事會ニ依リ「ジュネーヴ」ニ招集セラレ千九百二十五年五月十九日ヲ以テ其ノ第七回會議ヲ開催シ

右會議ノ會議事項ノ第一項目ノ一部タル労働者職業病補償ニ關スル提案ノ採擇ヲ決議シ且該提案ハ國際條約案ノ形式ニ依ルベキモノナルコトヲ決定シ

國際労働機關ノ締盟國ニ依リ批准セラルルガ爲「ヴェルサイユ」條約ノ第十三編及他ノ平和諸條約ノ對當編ノ規定ニ從ヒ千九百二十五年六月十日左ノ條約案ヲ採擇ス

第一條

本條約ヲ批准スル國際労働機關ノ各締盟國ハ職業病ニ因リ労働不能ト爲リタル労働者ニ、又ハ右疾病ノ爲死亡シタルトキハ其ノ被扶養者ニ、産業災害補償ニ關スル當該國ノ法制ノ一般原則ニ從ヒ補償ヲ支拂フベキヲ定ムルコトヲ約ス

右ノ補償ノ率ハ産業災害ニ因リ生ズル傷害ニ關スル當該國ノ法制ノ定ムル率ヲ下ルコトヲ得ズ、

右ノ規定ヲ條件トシテ各締盟國ハ前記ノ疾病ニ對スル補償ノ支拂ハルベキ條件ヲ當該國ノ法令又ハ規則中ニ定ムルニ付又産業災害補償ニ關スル其ノ法制ヲ前記疾病ニ適用スルニ付其ノ便宜ト思惟スル變更及修正ヲ加フルコトヲ得

第二條

本條約ヲ批准スル國際労働機關ノ各締盟國ハ本條附表ニ掲グル料品ニ因リ生ズル疾病及中毒ガ右附表ニ於テ對當シテ掲ゲラルル職業又ハ産業ニ從事スル労働者ヲ冒シ且當該國ノ法制ノ適用ヲ受クル企業ニ於ケル就業ノ結果生ズルトキハ右疾病及中毒ヲ職業病ト認ムルコトヲ約ス

附表

疾病及有毒料品ノ種目

鉛、其ノ合金又ハ化合物ノ中毒及其ノ續發症

- 之ニ對當スル工業及工程ノ種目
- 含鉛鑽石ノ取扱(亞鉛工場ニ於ケル鉛灰ヲ含ム)
- 古亞鉛及鉛ノ「インゴット」鑄造
- 鑄鉛又ハ鉛合金ヨリ成ル物品ノ製造
- 複寫業ニ於ケル作業
- 鉛化合物ノ製造

水銀、其ノ「アマルガム」及化合物ノ中毒並其ノ續發症

- 蓄電池ノ製造及修理
- 鉛ヲ含ム「エナメル」ノ製造及使用
- 鉛鍍又ハ鉛ヲ含ム「バテ」粉ヲ以テスル琢磨
- 鉛顔料ヲ含ム塗料、膠着料品又ハ着色料品ノ製造及取扱ヲ含ム一切ノ塗布作業
- 水銀鑽石ノ取扱
- 水銀化合物ノ製造
- 計量器具及實驗用器具ノ製造
- 製帽業用ノ粗製材料ノ製造
- 「アマルガム」鍍金
- 灼熱燈ノ製造ニ於ケル水銀唧筒ノ使用
- 雷汞雷管ノ製造
- 炭疽病ニ感染セル動物ニ關聯スル作業
- 皮、蹄及角ヲ包含スル動物ノ殘骸又ハ右殘骸ノ一部ノ取扱
- 商品ノ積込及荷卸又ハ運送

炭疽病感染

第三條

「ヴェルサイユ」條約ノ第十三編及他ノ平和諸條約ノ對當編ニ定ムル條件ニ依ル本條約ノ正式批准ハ登録ノ爲國際聯盟事務總長ニ之ヲ通告スベシ

第四條

本條約ハ事務總長ガ國際労働機關ノ締盟國中ノ二國ノ批准ヲ登録シタル日ヨリ效力ヲ發生スベシ
本條約ハ該事務局ニ其ノ批准ヲ登録シタル締盟國ノミヲ拘束スベシ
爾後本條約ハ他ノ何レノ締盟國ニ付テモ右事務局ニ其ノ批准ヲ登録シタル日ヨリ效力ヲ發生スルモノトス

第五條

國際労働機關ノ締盟國中ノ二國ガ國際聯盟事務局ニ本條約ノ批准ノ登録ヲ爲シタルトキハ事務總長ハ國際労働機關ノ一切ノ締盟國ニ右ノ旨ヲ通告スベシ事務總長ハ爾後該機關ノ他ノ締盟國ノ通告シタル批准ノ登録ヲ一切ノ締盟國ニ同様ニ通告スベシ

第六條

本條約ヲ批准スル各締盟國ハ千九百二十七年一月一日迄ニ第一條及第二條ノ規定ヲ實施シ且右規

定ヲ實施スルニ必要ナルベキ措置ヲ執ルコトニ同意ス尤モ第四條ノ規定ニ從フモノトス

第七條

本條約ヲ批准スル國際労働機關ノ各締盟國ハ「ヴェルサイユ」條約ノ第四百二十一條ノ規定及他ノ平和諸條約ノ對當條項ノ規定ニ依リ其ノ殖民地、屬地及保護國ニ之ヲ適用スルコトヲ約ス

第八條

本條約ヲ批准シタル締盟國ハ本條約ノ最初ノ效力發生ノ日ヨリ五年ノ期間滿了後ニ於テ國際聯盟事務總長宛登録ノ爲ニスル通告ニ依リ之ヲ廢棄スルコトヲ得右ノ廢棄ハ該事務局ニ登録アリタル日以後一年間ハ其ノ效力ヲ生ゼズ

第九條

國際労働事務局ノ理事會ハ少クトモ十年ニ一回本條約ノ施行ニ關スル報告ヲ總會ニ提出スベク且其ノ改正又ハ變更ニ關スル問題ヲ總會ノ會議事項ニ掲グベキヤ否ヤヲ審議スベシ

第十條

本條約ハ佛蘭西語及英吉利語ノ本文ヲ以テ共ニ正文トス
前記ハ國際労働機關ノ總會ニ依リ、「ジュネーヴ」ニ於テ開催セラレ且千九百二十五年六月十日閉會

ヲ宣セラレタル其ノ第七回會議中適法ニ採擇セラレタル條約案ノ正文ナリトス 正辛六月十日開會
右證據トシテ千九百二十五年六月二十四日署名ス

總 會 議 長 ドクトル、エドヴァルド、ベネシエ

其ノ第五又ハ變更ニ關スル問題ニ 國際勞働事務局長 アルペール、トーマン

國際勞働事務局長 アルペール、トーマン

日 本 國 際 勞 働 事 務 局 長

日 本 國 際 勞 働 事 務 局 長

本 國 際 勞 働 事 務 局 長

本 國 際 勞 働 事 務 局 長

本 國 際 勞 働 事 務 局 長

本 國 際 勞 働 事 務 局 長

本 國 際 勞 働 事 務 局 長

本 國 際 勞 働 事 務 局 長

勞働者職業病補償ニ關スル勸告

國際聯盟ノ國際勞働機關ノ總會ハ

國際勞働事務局ノ理事會ニ依リ「ジュネーヴ」ニ招集セラレ千九百二十五年五月十九日ヲ以テ其
ノ第七回會議ヲ開催シ

右會議ノ會議事項ノ第一項目ノ一部タル勞働者職業病補償ニ關スル提案ノ採擇ヲ決議シ且
該提案ハ勸告ノ形式ニ依ルベキモノナルコトヲ決定シ

國際勞働機關ノ締盟國ヲシテ立法其ノ他ノ方法ニ依リ之ガ實現ヲ爲サシムル目的ヲ以テ考慮セシ
ムル爲「ヴェルサイユ」條約ノ第十三編及他ノ平和諸條約ノ對當編ノ規定ニ從ヒ千九百二十五年六
月十日左ノ勸告ヲ採擇ス

各國ハ勞働者職業病補償ニ關スル條約第二條ノ附表ニ包含セラルル種目ヨリ一層完全ナルモノヲ
當該國ノ法制ニ於テ定ムルヲ得ルモノト認メラルルニ因リ
總會ハ左ノ通勸告ス

國際勞働機關ノ各締盟國ハ當該國ノ法制ニ於テ職業的ト認メラルル疾病ノ種目ヲ改正スルノ簡易

ナル手續ノ未ダ存在セザルトキハ右手續ヲ採用スベキコト

前記ハ國際労働機關ノ總會ニ依リ、「ジュネーヴ」ニ於テ開催セラレ且千九百二十五年六月十日閉會ヲ宣セラレタル其ノ第七回會議中適法ニ採擇セラレタル勸告ノ正文ナリトス
右證據トシテ千九百二十五年六月二十四日署名ス

總 會 議 長 ドクトル、エドヴァルド、ベネシユ

國際労働事務局長 アルベール、トーマ

國際労働機關ノ總會ニ依リ「ジュネーヴ」ニ於テ開催セラレ且千九百二十五年五月十九日ヲ以テ其ノ第七回會議ヲ開催シ

労働者災害補償ニ付テノ内外人労働者ノ均等 待遇ニ關スル條約案

國際聯盟ノ國際労働機關ノ總會ハ

國際労働事務局ノ理事會ニ依リ「ジュネーヴ」ニ招集セラレ千九百二十五年五月十九日ヲ以テ其ノ第七回會議ヲ開催シ

右會議ノ會議事項ノ第二項目タル労働者災害補償ニ付テノ内外人労働者ノ均等待遇ニ關スル提案ノ採擇ヲ決議シ且

該提案ハ國際條約案ノ形式ニ依ルベキモノナルコトヲ決定シ

國際労働機關ノ締盟國ニ依リ批准セララルガ爲「ヴェルサイユ」條約ノ第十三編及他ノ平和諸條約ノ對當編ノ規定ニ從ヒ千九百二十五年六月五日左ノ條約案ヲ採擇ス

第 一 條

本條約ヲ批准スル國際労働機關ノ各締盟國ハ本條約ヲ批准シタル他ノ締盟國ノ國民ニシテ其ノ領域内ニ於テ發生スル産業災害ニ因リ身體ノ傷害ヲ受ケタル者又ハ該労働者ノ被扶養者ニ自國民ニ

許與スルト同様ノ労働者補償ニ關スル待遇ヲ許與スルコトヲ約ス
右ノ均等待遇ハ居所ノ如何ニ拘ラズ外國人労働者又ハ其ノ被扶養者ニ保障セラルベシ締盟國又ハ
其ノ國民ガ右原則ニ基キ該締盟國ノ領域外ニ於テ爲スベキ支拂ニ關シテ執ルベキ措置ハ、必要ア
ルトキハ、關係アル締盟國間ノ特殊ノ協定ニ依リ之ヲ定ムベシ

第二二條

一締盟國ノ領域内ニ於テ他ノ締盟國ノ領域内ニ存在スル企業ノ爲一時的又ハ間歇的ニ使用中ノ勞
働者ニ發生スル産業災害ノ補償ハ右他ノ締盟國ノ法令及規則ノ適用ヲ受クベキコトヲ定ムル爲關
係アル締盟國間ニ於テ特殊ノ取極ヲ爲スコトヲ得

第二三條

本條約ヲ批准スル締盟國ニシテ保險其ノ他ノ方法ニ依ル労働者災害補償ニ關スル制度ヲ未ダ有セ
ザルモノハ其ノ批准ノ日ヨリ三年以内ニ右ノ制度ヲ設クルコトニ同意ス

第二四條

本條約ヲ批准スル締盟國ハ本條約ノ實施並労働者補償ニ關スル各自國ノ法令及規則ノ施行ヲ容易
ナラシムル爲相互的助力ヲ互ニ與フルコト又労働者補償ニ關スル現行ノ法令及規則ノ變更ニ關シ

國際労働事務局ニ通報スルコトヲ尙約ス右事務局ハ他ノ關係アル締盟國ニ之ヲ通報スベシ

第二五條

「ヴェルサイユ」條約ノ第十三編及他ノ平和諸條約ノ對當編ニ定ムル條件ニ依ル本條約ノ正式批准
ハ登録ノ爲國際聯盟事務總長ニ之ヲ通告スベシ

第二六條

本條約ハ事務總長ガ國際労働機關ノ締盟國中ノ二國ノ批准ヲ登録シタル日ヨリ效力ヲ發生スベシ
本條約ハ該事務局ニ其ノ批准ヲ登録シタル締盟國ノミヲ拘束スベシ
爾後本條約ハ他ノ何レノ締盟國ニ付テモ右事務局ニ其ノ批准ヲ登録シタル日ヨリ效力ヲ發生スル
モノトス

第二七條

國際労働機關ノ締盟國中ノ二國ガ國際聯盟事務局ニ本條約ノ批准ノ登録ヲ爲シタルトキハ事務總
長ハ國際労働機關ノ一切ノ締盟國ニ右ノ旨ヲ通告スベシ事務總長ハ爾後該機關ノ他ノ締盟國ノ通
告シタル批准ノ登録ヲ一切ノ締盟國ニ同様ニ通告スベシ

第二八條

本條約ヲ批准スル各締盟國ハ千九百二十七年一月一日迄ニ第一條、第二條、第三條及第四條ノ規定ヲ實施シ且右規定ヲ實施スルニ必要ナルベキ措置ヲ執ルコトニ同意ス尤モ第六條ノ規定ニ從フモノトス

第九條

本條約ヲ批准スル國際労働機關ノ各締盟國ハ「ヴェルサイユ」條約ノ第四百二十一條ノ規定及他ノ平和諸條約ノ對等條項ノ規定ニ依リ其ノ殖民地、屬地及保護國ニ之ヲ適用スルコトヲ約ス

第十條

本條約ヲ批准シタル締盟國ハ本條約ノ最初ノ效力發生ノ日ヨリ十年ノ期間滿了後ニ於テ國際聯盟事務總長宛登録ノ爲ニスル通告ニ依リ之ヲ廢棄スルコトヲ得右ノ廢棄ハ該事務局ニ登録アリタル日以後一年間ハ其ノ效力ヲ生ゼズ

第十一條

國際労働事務局ノ理事會ハ少クトモ十年ニ一回本條約ノ施行ニ關スル報告ヲ總會ニ提出スベク且其ノ改正又ハ變更ニ關スル問題ヲ總會ノ會議事項ニ掲グベキヤ否ヤヲ審議スベシ

第十二條

本條約ハ佛蘭西語及英吉利語ノ本文ヲ以テ共ニ正文トス
前記ハ國際労働機關ノ總會ニ依リ「ジュネーヴ」ニ於テ開催セラレ且千九百二十五年六月十日閉會ヲ宣セラレタル其ノ第七回會議中適法ニ採擇セラレタル條約案ノ正文ナリトス
右證據トシテ千九百二十五年六月二十四日署名ス

總會議長 ドクトル、エドヴァルド、ベネシュ

國際労働事務局長 アルベール、トーマ

International Labour Office
Bureau of International Labour
Geneva, Switzerland
1925

労働者災害補償ニ付テノ内外人労働者ノ均等
待遇ニ關スル勸告

國際聯盟ノ國際労働機關ノ總會ハ

國際労働事務局ノ理事會ニ依リ「ジュネーヴ」ニ招集セラレ千九百二十五年五月十九日ヲ以テ其ノ第七回會議ヲ開催シ

右會議ノ會議事項ノ第二項目タル労働者災害補償ニ付テノ内外人労働者ノ均等待遇ニ關スル提案ノ採擇ヲ決議シ且

該提案ハ勸告ノ形式ニ依ルベキモノナルコトヲ決定シ
國際労働機關ノ締盟國ヲシテ立法其ノ他ノ方法ニ依リ之ガ實現ヲ爲サシムル目的ヲ以テ考慮セシムル爲「ヴェルサイユ」條約ノ第十三編及他ノ平和諸條約ノ對當編ノ規定ニ從ヒ千九百二十五年六月五日左ノ勸告ヲ採擇ス

第一

労働者災害補償ニ付テノ内外人労働者ノ均等待遇ニ關スル條約案ノ實施ヲ容易ナラシムル爲總會

ハ左ノ通勸告ス

三二

(イ) 一締盟國ノ法令及規則ニ從ヒ補償ノ支拂ヲ受クベキ者ガ他ノ締盟國ノ領域内ニ居住スルト

キハ右補償ノ支拂ヲ容易ナラシメ且前記ノ法令及規則ニ依リ定メラルル右支拂ニ關スル條件ノ遵守ヲ確保スル爲必要ナル措置ヲ執ルコト

(ロ) 補償請求權ノ發生セル締盟國ノ領域外ニ居住スル者ニ支拂ハルベキ補償ノ不拂、支拂中斷又ハ減額ニ關スル爭議ノ場合ニ於テハ當事者ノ出席ヲ求メズシテ右領域内ニ於ケル權限アル裁判所ニ出訴スルノ便宜ヲ與フルコト

(ハ) 労働者補償ニ關聯スル目的ノ爲各締盟國ノ法令ニ依リ許與セラルル租税ノ免除、公文書ノ無料下付其ノ他ノ特權ニ關スル便宜ハ前記條約ヲ批准シタル他ノ締盟國ノ國民ニ同様ノ條件ヲ以テ擴張セラルルコト

第 二

總會ハ保險其ノ他ノ方法ニ依ル労働者産業災害補償ニ關スル制度ノ存在セザル國ニ於テハ右ノ制度ノ設置アル迄當該國政府ガ外國人労働者ヲシテ其ノ自國ニ於ケル労働者補償ニ關スル法令及規則ニ依リ給付ヲ受クルヲ得シムルノ便宜ヲ之ニ與フベキコトヲ勸告ス

前記ハ國際労働機關ノ總會ニ依リ、「ジュネーヴ」ニ於テ開催セラレ且千九百二十五年六月十日閉會ヲ宣セラレタル其ノ第七回會議中適法ニ採擇セラレタル勸告ノ正文ナリトス
右證據トシテ千九百二十五年六月二十四日署名ス

總 會 議 長 ドクトル、エドヴァルド、ベネシユ

國際労働事務局長 アルベール、トーマ

麵麩燒工場ニ於ケル夜間作業ニ關スル條約案

國際聯盟ノ國際労働機關ノ總會ハ

〔國際労働事務局ノ理事會ニ依リ「ジュネーヴ」ニ招集セラレ千九百二十五年五月十九日ヲ以テ其ノ第七回會議ヲ開催シ

右會議ノ會議事項ノ第四項目タル麵麩燒工場ニ於ケル夜間作業ニ關スル提案ノ採擇ヲ決議シ且

該提案ハ國際條約案ノ形式ニ依ルベキモノナルコトヲ決定シ

國際労働機關ノ締盟國ニ依リ批准セララルルガ爲「ヴェルサイユ」條約ノ第十三編及他ノ平和諸條約ノ對當編ノ規定ニ從ヒ千九百二十五年六月八日左ノ條約案ヲ採擇ス

第一條

以下定ムル例外ヲ條件トシテ麵麩「ペーストリー」其ノ他ノ「フラワー、コンフェクシヨナリー」ノ夜間ニ於ケル製造ハ之ヲ禁止ス

右ノ禁止ハ右製品ノ製造ニ從事スル事業主及労働者ヲ包含スル一切ノ者ノ作業ニ之ヲ適用ス但シ

右ハ同一ノ世帯ニ屬スル者ノ自家用ノ爲ニスル右製品ノ製造ニ之ヲ適用セズ
本條約ハ「ビスケット」ノ大量製造ニ之ヲ適用セズ各締盟國ハ如何ナル製品ガ本條約ニ「ビスケッ
ト」ト稱スルモノニ包含セラレベキヤヲ關係アル使用者團體及勞働者團體ト協議ノ上決定スルコ
トヲ得

第二二條

本條約ニ於テ「夜間」ト稱スルハ少クトモ七時間ノ繼續時間ヲ謂フ右時間ノ始時及終時ハ關係ア
ル使用者團體及勞働者團體ト協議ノ上各國ニ於ケル權限アル機關之ヲ定ムベク且右時間ハ夜十一
時ヨリ朝五時ニ至ル時間ヲ包含スベシ氣候若ハ季節ニ依リ必要アルトキ又ハ關係アル使用者團體
及勞働者團體間ノ合意アルトキハ夜十時ヨリ朝四時ニ至ル時間ヲ以テ夜十一時ヨリ朝五時ニ至ル
時間ニ代フルコトヲ得

第二三條

各國ノ權限アル機關ハ關係アル使用者團體及勞働者團體ト協議ノ上第一條ニ對スル左ノ例外ヲ設
クルコトヲ得

(イ) 準備又ハ補充ノ作業ガ必ズ通常勞働時間以外ニ行ハルルコトヲ要スル限度ニ於テ其ノ遂

行ニ必要ナル恒久的例外但シ右作業ニハ嚴密ニ必要ナル數ヨリ多クノ勞働者及十八歳未滿ノ
年少者ヲ使用スルコトヲ得ズ

(ロ) 熱帶國ニ於ケル麵粉燒工業ノ特殊事情ヨリ生ズル要求ノ爲必要ナル恒久的例外

(ハ) 週休ノ按配ノ爲必要ナル恒久的例外

(ニ) 事業場ヲシテ業務ノ異常ナル繁忙又ハ國ノ必要ニ應ズルヲ得シムル爲必要ナル一時的例
外

第二四條

第一條ノ例外ハ現ニ災害アリ若ハ其ノ虞アル場合、機械若ハ工場設備ニ付緊急ノ處置ヲ施スベキ
場合又ハ不可抗力ノ場合ニ於テ之ヲ設クルコトヲ得但シ當該企業ノ通常ノ操業ニ對スル重大ナル
障礙ヲ除去スルニ必要ナル限度ヲ超ユルコトヲ得ズ

第二五條

本條約ヲ批准スル各締盟國ハ第一條ニ定ムル禁止ノ有效ニ實施セララルコトヲ確保スル爲適當ナ
ル措置ヲ執ルベク且國際勞働總會ニ依リ其ノ第五回會議(千九百二十三年)ニ於テ採擇セラレタ
ル勸告ニ從ヒ使用者、勞働者及其ノ各自ノ團體ヲシテ右ノ措置ニ付協力スルコトヲ得シムベシ

第六條

本條約ノ規定ハ千九百二十七年一月一日ニ至ル迄效力ヲ發生セザルベシ

第七條

「ヴェルサイユ」條約ノ第十三編及他ノ平和諸條約ノ對當編ニ定ムル條件ニ依ル本條約ノ正式批准ハ登録ノ爲國際聯盟事務總長ニ之ヲ通告スベシ

第八條

本條約ハ事務總長ガ國際労働機關ノ締盟國中ノ二國ノ批准ヲ登録シタル日ヨリ效力ヲ發生スベシ
本條約ハ該事務局ニ其ノ批准ヲ登録シタル締盟國ノミヲ拘束スベシ
爾後本條約ハ他ノ何レノ締盟國ニ付テモ右事務局ニ其ノ批准ヲ登録シタル日ヨリ效力ヲ發生スルモノトス

第九條

國際労働機關ノ締盟國中ノ二國ガ國際聯盟事務局ニ本條約ノ批准ヲ登録ヲ爲シタルトキハ事務總長ハ國際労働機關ノ一切ノ締盟國ニ右ノ旨ヲ通告スベシ事務總長ハ爾後該機關ノ他ノ締盟國ノ通告シタル批准ノ登録ヲ一切ノ締盟國ニ同様ニ通告スベシ

第十條

本條約ヲ批准スル國際労働機關ノ各締盟國ハ「ヴェルサイユ」條約ノ第四百二十二條ノ規定及他ノ平和諸條約ノ對當條項ノ規定ニ依リ其ノ殖民地、屬地及保護國ニ之ヲ適用スルコトヲ約ス

第十一條

本條約ヲ批准シタル締盟國ハ本條約ノ最初ノ效力發生ノ日ヨリ十年ノ期間滿了後ニ於テ國際聯盟事務總長宛登録ノ爲ニスル通告ニ依リ之ヲ廢棄スルコトヲ得右ノ廢棄ハ該事務局ニ登録アリタル日以後一年間ハ其ノ效力ヲ生ゼズ

第十二條

國際労働事務局ノ理事會ハ少クトモ十年ニ一回本條約ノ施行ニ關スル報告ヲ總會ニ提出スベク且其ノ改正又ハ變更ニ關スル問題ヲ總會ノ會議事項ニ掲グベキヤ否ヤヲ審議スベシ

第十三條

本條約ハ佛蘭西語及英吉利語ノ本文ヲ以テ共ニ正文トス
前記ハ國際労働機關ノ總會ニ依リ「ジュネーヴ」ニ於テ開催セラレ且千九百二十五年六月十日閉會ヲ宣セラレタル其ノ第七回會議中適法ニ採擇セラレタル條約案ノ正文ナリトス

右證據トシテ千九百二十五年六月二十四日署名ス

本會議一員 總 會 議 長 ドクトル、エドヴァルド、ベネシエ十日開會

國際勞働事務局長 アルベール、トーマ

其ノ五五五號ニ關スル開會ノ會務專任ニ決メシテ否ナキ事ヲ承認スルニ
國際勞働事務局長アルベール、トーマニ對シテ、前記ノ開會ニ關スル報告ヲ提出スルニ且
本會議一員アルベール、トーマニ對シテ、前記ノ開會ニ關スル報告ヲ提出スルニ
本會議一員アルベール、トーマニ對シテ、前記ノ開會ニ關スル報告ヲ提出スルニ
本會議一員アルベール、トーマニ對シテ、前記ノ開會ニ關スル報告ヲ提出スルニ

第十九條

本會議一員アルベール、トーマニ對シテ、前記ノ開會ニ關スル報告ヲ提出スルニ
本會議一員アルベール、トーマニ對シテ、前記ノ開會ニ關スル報告ヲ提出スルニ
本會議一員アルベール、トーマニ對シテ、前記ノ開會ニ關スル報告ヲ提出スルニ
本會議一員アルベール、トーマニ對シテ、前記ノ開會ニ關スル報告ヲ提出スルニ

International Labour Office shall present to the General Conference a report on the working of this Convention and shall consider the desirability of placing on the agenda of the Conference the question of its revision or modification.

Article 13

The French and English texts of this Convention shall both be authentic.

The foregoing is the authentic text of the Draft Convention duly adopted by the General Conference of the International Labour Organisation during its Seventh Session which was held at Geneva and declared closed the 10th day of June 1926. IN FAITH WHEREOF we have appended our signatures this twenty-fourth day of June 1926.

The President of the Conference.

DR. EDVARD BENNÉ

The Director of the International Labour Office.

ALBERT THOMAS

Travail devra, au moins une fois tous les dix ans, présenter à la Conférence générale un rapport sur l'application de la présente Convention et décidera s'il y a lieu d'inscrire à l'ordre du jour de la Conférence la question de la revision ou de la modification de la dite Convention.

Article 13.

Les textes français et anglais de la présente Convention feront foi l'un et l'autre.

Le texte qui précède est le texte authentique du Projet de Convention dûment adopté par la Conférence générale de l'Organisation internationale du Travail dans sa septième session qui s'est tenue à Genève et qui a été déclarée close le 10 juin 1925.

EN FOI DE QUOI ont apposé leurs signatures, le 24 juin 1925:

Le Président de la Conférence.

Dr. EDVARD BENEŠ.

Le Directeur du Bureau international du Travail.

ALBERT THOMAS.

International Labour Office shall present to the General Conference a report on the working of this Convention and shall consider the desirability of placing on the agenda of the Conference the question of its revision or modification.

Article 13.

The French and English texts of this Convention shall both be authentic.

The foregoing is the authentic text of the Draft Convention duly adopted by the General Conference of the International Labour Organisation during its Seventh Session which was held at Geneva and declared closed the 10th day of June 1925.

IN FAITH WHEREOF we have appended our signatures this twenty-fourth day of June 1925.

The President of the Conference.

Dr. EDVARD BENEŠ.

The Director of the International Labour Office.

ALBERT THOMAS.

Article 9.

Aussitôt que les ratifications de deux Membres de l'Organisation internationale du Travail auront été enregistrées au Secrétariat, le Secrétaire général de la Société des Nations notifiera ce fait à tous les Membres de l'Organisation internationale du Travail. Il leur notifiera également l'enregistrement des ratifications qui lui seront ultérieurement communiquées par tous autres Membres de l'Organisation.

Article 10.

Tout Membre de l'Organisation internationale du Travail qui ratifie la présente Convention s'engage à l'appliquer à ses colonies, possessions ou protectorats, conformément aux dispositions de l'article 421 du Traité de Versailles et des articles correspondants des autres Traités de Paix.

Article 11.

Tout Membre ayant ratifié la présente Convention peut la dénoncer, à l'expiration d'une période de dix années après la date de la mise en vigueur initiale de la Convention, par un acte communiqué au Secrétaire général de la Société des Nations et par lui enregistré. La dénonciation ne prendra effet qu'une année après avoir été enregistrée au Secrétariat.

Article 12.

Le Conseil d'administration du Bureau international du

Article 9.

As soon as the ratifications of two Members of the International Labour Organisation have been registered with the Secretariat, the Secretary-General of the League of Nations shall so notify all the Members of the International Labour Organisation. He shall likewise notify them of the registration of ratifications which may be communicated subsequently by other Members of the Organisation.

Article 10.

Each Member of the International Labour Organisation which ratifies this Convention engages to apply it to its colonies, possessions and protectorates, in accordance with the provisions of Article 421 of the Treaty of Versailles and of the corresponding Articles of the other Treaties of Peace.

Article 11.

A Member which has ratified this Convention may denounce it after the expiration of ten years from the date on which the Convention first comes into force, by an act communicated to the Secretary-General of the League of Nations for registration. Such denunciation shall not take effect until one year after the date on which it is registered with the Secretariat.

Article 12.

At least once in ten years, the Governing Body of the

les plus appropriés l'application générale effective de l'interdiction prévue à l'article premier et y associera les employeurs et les travailleurs ainsi que leurs organisations respectives, conformément à la Recommandation adoptée par la Conférence internationale du Travail à sa cinquième session (1923).

Article 6.

Les dispositions de la présente Convention n'entreront en vigueur que le 1^{er} janvier 1927.

Article 7.

Les ratifications officielles de la présente Convention dans les conditions prévues à la Partie XIII du Traité de Versailles et aux Parties correspondantes des autres Traités de Paix seront communiquées au Secrétaire général de la Société des Nations et par lui enregistrées.

Article 8.

La présente Convention entrera en vigueur dès que les ratifications de deux Membres de l'Organisation internationale du Travail auront été enregistrées par le Secrétaire général.

Elle ne liera que les Membres dont la ratification aura été enregistrée au Secrétariat.

Par la suite cette Convention entrera en vigueur pour chaque Membre à la date où sa ratification aura été enregistrée au Secrétariat.

prescribed in Article 1 is effectively enforced, and shall enable the employers, the workers, and their respective organisations to co-operate in such measures, in conformity with the Recommendation adopted by the International Labour Conference at its Fifth Session (1923).

Article 6.

The provisions of this Convention shall not take effect until 1 January 1927.

Article 7.

The formal ratifications of this Convention under the conditions set forth in Part XIII of the Treaty of Versailles and in the corresponding Parts of the other Treaties of Peace shall be communicated to the Secretary-General of the League of Nations for registration.

Article 8.

This Convention shall come into force at the date on which the ratifications of two Members of the International Labour Organisation have been registered by the Secretary-General.

It shall be binding only upon those Members whose ratifications have been registered with the Secretariat.

Thereafter, the Convention shall come into force for any Member at the date on which its ratification has been registered with the Secretariat.

les autorités compétentes de chaque pays pour déterminer les dérogations ci-après aux dispositions de l'article premier:

a) Les dérogations permanentes nécessitées par l'exécution des travaux préparatoires et complémentaires, dans la mesure où leur exécution est nécessaire en dehors de la période normale du travail, sous réserve que le nombre d'ouvriers occupés à ces travaux sera limité au strict nécessaire et que les jeunes gens de moins de dix-huit ans ne pourront y participer;

b) Les dérogations permanentes nécessaires pour répondre aux besoins résultant des conditions particulières de l'industrie de la boulangerie dans les pays tropicaux;

c) Les dérogations permanentes nécessaires pour assurer le repos hebdomadaire;

d) Les dérogations temporaires nécessaires pour permettre aux entreprises de faire face à des surcroûts de travail extraordinaires ou à des nécessités d'ordre national.

Article 4.

Il pourra être dérogé également aux dispositions de l'article premier en cas d'accident survenu ou imminent, ou en cas de travaux d'urgence à effectuer aux machines ou à l'outillage, ou en cas de force majeure, mais uniquement dans la mesure nécessaire pour éviter qu'une gêne sérieuse ne soit apportée à la marche normale de l'établissement.

Article 5.

Chaque Membre qui ratifiera la présente Convention prendra toutes mesures utiles pour assurer par les moyens

country may make the following exceptions to the provisions of Article 1:

(a) The permanent exceptions necessary for the execution of preparatory or complementary work as far as it must necessarily be carried on outside the normal hours of work, provided that no more than the strictly necessary number of workers and that no young persons under the age of eighteen years shall be employed in such work;

(b) The permanent exceptions necessary for requirements arising from the particular circumstances of the baking industry in tropical countries;

(c) The permanent exceptions necessary for the arrangement of the weekly rest;

(d) The temporary exceptions necessary to enable establishments to deal with unusual pressure of work or national necessities.

Article 4.

Exceptions may also be made to the provisions of Article 1 in case of accident, actual or threatened, or in case of urgent work to be done to machinery or plant, or in case of *force majeure*, but only so far as may be necessary to avoid serious interference with the ordinary working of the undertaking.

Article 5.

Each Member which ratifies this Convention shall take appropriate measures to ensure that the prohibition

Cette interdiction s'applique au travail de toutes personnes, aussi bien patrons qu'ouvriers, participant à la fabrication visée; elle ne concerne toutefois pas la fabrication ménagère effectuée par les membres d'un même foyer pour leur consommation personnelle.

La présente Convention ne vise pas la fabrication en gros des biscuits. Il appartient à chaque Membre de déterminer, après consultation des organisations patronales et ouvrières intéressées, à quels produits devra s'appliquer le terme "biscuits" aux fins de la présente Convention.

Article 2.

Pour l'application de la présente Convention, le terme "nuit" signifie une période d'au moins sept heures consécutives. Le commencement et la fin de cette période seront fixés par les autorités compétentes de chaque pays, après consultation des organisations patronales et ouvrières intéressées, et elle comprendra l'intervalle écoulé entre onze heures du soir et cinq heures du matin. Lorsque le climat ou la saison le justifient, ou après accord entre les organisations patronales et ouvrières intéressées, l'intervalle écoulé entre dix heures du soir et quatre heures du matin pourra être substitué à l'intervalle écoulé entre onze heures du soir et cinq heures du matin.

Article 3.

Après consultation des organisations patronales et ouvrières intéressées, des règlements pourront être pris par

This prohibition applies to the work of all persons, including proprietors as well as workers, engaged in the making of such products; but it does not apply to the making of such products by members of the same household for their own consumption.

This Convention has no application to the wholesale manufacture of biscuits. Each Member may, after consultation with the employers' and workers' organisations concerned, determine what products are to be included in the term "biscuits" for the purpose of this Convention.

Article 2.

For the purpose of this Convention, the term "night" signifies a period of at least seven consecutive hours. The beginning and end of this period shall be fixed by the competent authority in each country after consultation with the organisations of employers and workers concerned, and the period shall include the interval between eleven o'clock in the evening and five o'clock in the morning. When it is required by the climate or season, or when it is agreed between the employers' and workers' organisations concerned, the interval between ten o'clock in the evening and four o'clock in the morning may be substituted for the interval between eleven o'clock in the evening and five o'clock in the morning.

Article 3.

After consultation with the employers' and the workers' organisations concerned, the competent authority in each

CONFÉRENCE INTERNATIONALE DU TRAVAIL

PROJET DE CONVENTION CONCERNANT LE
TRAVAIL DE NUIT DANS LES BOULANGERIES.

La Conférence générale de l'Organisation internationale
du Travail de la Société des Nations,

Convoquée à Genève par le Conseil d'administration
du Bureau international du Travail, et s'y étant réunie
le 19 mai 1925, en sa septième session,

Après avoir décidé d'adopter diverses propositions
relatives au travail de nuit dans les boulangeries, qua-
trième question inscrite à l'ordre du jour de la session, et

Après avoir décidé que ces propositions prendraient
la forme d'un projet de convention internationale,
adopte, ce huitième jour de juin mil neuf cent vingt-cinq, le
Projet de Convention ci-après à ratifier par les Membres de
l'Organisation internationale du Travail conformément aux
dispositions de la Partie XIII du Traité de Versailles et des
Parties correspondantes des autres Traités de Paix:

Article 1.

Sous réserve des exceptions prévues dans les dispositions
de la présente Convention, la fabrication, pendant la nuit,
du pain, de la pâtisserie ou des produits similaires à base de
farine est interdite.

INTERNATIONAL LABOUR CONFERENCE

DRAFT CONVENTION CONCERNING NIGHT
WORK IN BAKERIES.

The General Conference of the International Labour
Organisation of the League of Nations,

Having been convened at Geneva by the Governing
Body of the International Labour Office, and having met
in its Seventh Session on 19 May 1925, and

Having decided upon the adoption of certain pro-
posals with regard to night work in bakeries, the fourth
item in the agenda of the Session, and

Having determined that these proposals shall take
the form of a draft international convention,
adopts, this eighth day of June of the year one thousand nine
hundred and twenty-five, the following Draft Convention for
ratification by the Members of the International Labour
Organisation, in accordance with the provisions of Part XIII
of the Treaty of Versailles and of the corresponding Parts
of the other Treaties of Peace:

Article 1.

Subject to the exceptions hereinafter provided, the
making of bread, pastry or other flour confectionery during
the night is forbidden.

pas un régime d'indemnisation ou d'assurance forfaitaires des accidents du travail, les Gouvernements, jusqu'à l'institution d'un tel régime, facilitent aux ouvriers étrangers le bénéfice de la législation nationale de ces ouvriers en matière de réparation des accidents du travail.

Le texte qui précède est le texte authentique de la Recommandation dûment adoptée par la Conférence générale de l'Organisation internationale du Travail dans sa septième session qui s'est tenue à Genève et qui a été déclarée close le 10 juin 1925.

EN FOI DE QUOI ont apposé leurs signatures, le 24 juin 1925:

Le Président de la Conférence.

Dr. EDVARD BENEŠ.

Le Directeur du Bureau international du Travail.

ALBERT THOMAS.

there exists no system, whether by insurance or otherwise, of workmen's compensation for industrial accidents, the Government shall, pending the institution of such a system, afford facilities to alien workers enabling them to benefit by the laws and regulations on workmen's compensation in their own countries.

The foregoing is the authentic text of the Recommendation duly adopted by the General Conference of the International Labour Organisation during its Seventh Session which was held at Geneva and declared closed the 10th day of June 1925.

IN FAITH WHEREOF we have appended our signatures this twenty-fourth day of June 1925.

The President of the Conference.

Dr. EDVARD BENEŠ.

The Director of the International Labour Office.

ALBERT THOMAS.

I.

La Conférence recommande qu'en vue de l'application de la Convention concernant l'égalité de traitement des travailleurs étrangers et nationaux en matière de réparation des accidents du travail, chaque Membre de l'Organisation internationale du Travail prenne les mesures nécessaires:

a) pour faciliter aux bénéficiaires d'une indemnité qui ne résident pas dans le pays où cette indemnité leur est payable le versement des sommes qui leur sont dues et pour assurer l'observation des conditions prescrites par les lois et règlements pour le paiement de ces sommes;

b) pour que, dans le cas de contestations sur le non-paiement, la suspension du paiement ou la réduction du montant de l'indemnité due à une personne qui ne réside pas dans le pays où son droit à indemnité a pris naissance, une action puisse être introduite devant les tribunaux compétents de ce pays, sans que l'intéressé soit tenu d'être présent en personne;

c) pour que le bénéfice des exemptions de droits fiscaux, de la délivrance gratuite de pièces officielles et des autres avantages accordés par la législation d'un Membre en matière de réparation des accidents du travail soit étendu dans les mêmes conditions aux ressortissants des autres Membres ayant ratifié la Convention ci-dessus mentionnée.

II.

La Conférence recommande que, dans les pays où n'existe

I.

In order to facilitate the application of the Convention concerning equality of treatment for national and foreign workers as regards workmen's compensation for accidents the Conference recommends that:

(a) When a person to whom compensation is due under the laws and regulations of one Member resides in the territory of another Member, the necessary measures be taken to facilitate the payment of such compensation and to ensure the observance of the conditions governing such payment laid down by the said laws and regulations;

(b) In case of dispute concerning the non-payment, cessation of payment, or reduction of the compensation due to a person residing elsewhere than in the territory of the Member where his claim to compensation originated, facilities be afforded for taking proceedings in the competent courts of law in such territory without requiring the attendance of the person concerned;

(c) Any advantage in respect of exemption from duties and taxes, free issue of official documents or other privileges granted by the law of any Member for purposes connected with workmen's compensation, be extended under the same conditions to the nationals of the other Members which shall have ratified the afore-mentioned Convention.

II.

The Conference recommends that, where in any country

SOCIÉTÉ DES NATIONS

CONFÉRENCE INTERNATIONALE DU TRAVAIL

RECOMMANDATION CONCERNANT L'ÉGALITÉ DE
TRAITEMENT DES TRAVAILLEURS ÉTRANGERS
ET NATIONAUX EN MATIÈRE DE RÉPARA-
TION DES ACCIDENTS DU TRAVAIL.

La Conférence générale de l'Organisation internationale
du Travail de la Société des Nations,

Convoquée à Genève par le Conseil d'administration
du Bureau international du Travail, et s'y étant réunie le
19 mai 1925, en sa septième session,

Après avoir décidé d'adopter diverses propositions
relatives à l'égalité de traitement des travailleurs nation-
aux et étrangers victimes d'accidents du travail, deuxième
question inscrite à l'ordre du jour de la session, et

Après avoir décidé que ces propositions prendraient
la forme d'une recommandation,

adopte, ce cinquième jour de juin mil neuf cent vingt-cinq,
la Recommandation ci-après à soumettre à l'examen des
Membres de l'Organisation internationale du Travail, en vue
de lui faire porter effet sous forme de loi nationale ou autrem-
ent, conformément aux dispositions de la Partie XIII du
Traité de Versailles et des Parties correspondantes des autres
Traités de Paix:

LEAGUE OF NATIONS

INTERNATIONAL LABOUR CONFERENCE

RECOMMENDATION CONCERNING EQUALITY OF
TREATMENT FOR NATIONAL AND FOREIGN
WORKERS AS REGARDS WORKMEN'S
COMPENSATION FOR ACCIDENTS.

The General Conference of the International Labour
Organisation of the League of Nations,

Having been convened at Geneva by the Govern-
ing Body of the International Labour Office, and having
met in its Seventh Session on 19 May 1925, and

Having decided upon the adoption of certain pro-
posals with regard to the equality of treatment for
national and foreign workers as regards workmen's com-
pensation for accidents, the second item in the agenda of
the Session, and

Having determined that these proposals shall take
the form of a recommendation,

adopts, this fifth day of June of the year one thousand nine
hundred and twenty-five, the following Recommendation, to
be submitted to the Members of the International Labour
Organisation for consideration with a view to effect being
given to it by national legislation or otherwise, in accordance
with the provisions of Part XIII of the Treaty of Versailles
and of the corresponding Parts of the other Treaties of
Peace:

date de la mise en vigueur initiale de la Convention, par un acte communiqué au Secrétaire général de la Société des Nations et par lui enregistré. La dénonciation ne prendra effet qu'une année après avoir été enregistrée au Secrétariat.

Article 11.

Le Conseil d'administration du Bureau international du Travail devra, au moins une fois tous les dix ans, présenter à la Conférence générale un rapport sur l'application de la présente Convention et décidera s'il y a lieu d'inscrire à l'ordre du jour de la Conférence la question de la révision ou de la modification de la dite Convention.

Article 12.

Les textes français et anglais de la présente Convention feront foi l'un et l'autre.

Le texte qui précède est le texte authentique du Projet de Convention dûment adopté par la Conférence générale de l'Organisation internationale du Travail dans sa septième session qui s'est tenue à Genève et qui a été déclarée close le 10 juin 1925.

EN FOI DE QUOI ont apposé leurs signatures, le 24 juin 1925:

The President of the Conference.

Dr. EDVARD BENEŠ.

The Director of the Bureau international du Travail.

ALBERT THOMAS.

which the Convention first comes into force, by an act communicated to the Secretary-General of the League of Nations for registration. Such denunciation shall not take effect until one year after the date on which it is registered with the Secretariat.

Article 11.

At least once in ten years, the Governing Body of the International Labour Office shall present to the General Conference a report on the working of this Convention and shall consider the desirability of placing on the agenda of the Conference the question of its revision or modification.

Article 12.

The French and English texts of this Convention shall both be authentic.

The foregoing is the authentic text of the Draft Convention duly adopted by the General Conference of the International Labour Organisation during its Seventh Session which was held at Geneva and declared closed the 10th day of June 1925.

IN FAITH WHEREOF we have appended our signatures this twenty-fourth day of June 1925.

The President of the Conference.

Dr. EDVARD BENEŠ.

The Director of the International Labour Office.

ALBERT THOMAS.

chaque Membre à la date où sa ratification aura été enregistrée au Secrétariat.

Article 7.

Aussitôt que les ratifications de deux Membres de l'Organisation internationale du Travail auront été enregistrées au Secrétariat, le Secrétaire général de la Société des Nations notifiera ce fait à tous les Membres de l'Organisation internationale du Travail. Il leur notifiera également l'enregistrement des ratifications qui lui seront ultérieurement communiquées par tous autres Membres de l'Organisation.

Article 8.

Sous réserve des dispositions de l'article 6, tout Membre qui ratifie la présente Convention s'engage à appliquer les dispositions des articles 1, 2, 3 et 4 au plus tard le 1^{er} janvier 1927, et à prendre telles mesures qui seront nécessaires pour rendre effectives ces dispositions.

Article 9.

Tout Membre de l'Organisation internationale du Travail qui ratifie la présente convention s'engage à l'appliquer à ses colonies, possessions ou protectorats, conformément aux dispositions de l'article 421 du Traité de Versailles et des articles correspondants des autres Traités de Paix.

Article 10.

Tout Membre ayant ratifié la présente Convention peut la dénoncer, à l'expiration d'une période de dix années après la

Member at the date on which its ratification has been registered with the Secretariat.

Article 7.

As soon as the ratifications of two Members of the International Labour Organisation have been registered with the Secretariat, the Secretary-General of the League of Nations shall so notify all the Members of the International Labour Organisation. He shall likewise notify them of the registration of ratifications which may be communicated subsequently by other Members of the Organisation.

Article 8.

Subject to the provisions of Article 6, each Member which ratifies this Convention agrees to bring the provisions of Articles 1, 2, 3 and 4 into operation not later than 1 January 1927, and to take such action as may be necessary to make these provisions effective.

Article 9.

Each Member of the International Labour Organisation which ratifies this Convention engages to apply it to its colonies, possessions and protectorates in accordance with the provisions of Article 421 of the Treaty of Versailles and of the corresponding Articles of the other Treaties of Peace.

Article 10.

A Member which has ratified this Convention may denounce it after the expiration of ten years from the date on

forfaitaires des accidents du travail conviennent d'instituer un tel régime dans un délai de trois ans à dater de leur ratification.

Article 4.

Les Membres qui ratifient la présente Convention s'engagent à se prêter mutuellement assistance en vue de faciliter son application, ainsi que l'exécution de leurs lois et règlements respectifs en matière de réparation des accidents du travail, et à porter à la connaissance du Bureau international du Travail, qui en informera les autres Membres intéressés, toute modification dans les lois et règlements en vigueur en matière de réparation des accidents du travail.

Article 5.

Les ratifications officielles de la présente Convention dans les conditions prévues à la Partie XIII du Traité de Versailles et aux Parties correspondantes des autres Traités de Paix seront communiquées au Secrétaire général de la Société des Nations et par lui enregistrées.

Article 6.

La présente Convention entrera en vigueur dès que les ratifications de deux Membres de l'Organisation internationale du Travail auront été enregistrées par le Secrétaire général.

Elle ne liera que les Membres dont la ratification aura été enregistrée au Secrétariat.

Par la suite cette Convention entrera en vigueur pour

otherwise, of workmen's compensation for industrial accidents agree to institute such a system within a period of three years from the date of their ratification.

Article 4.

The Members which ratify this Convention further undertake to afford each other mutual assistance with a view to facilitating the application of the Convention and the execution of their respective laws and regulations on workmen's compensation and to inform the International Labour Office, which shall inform the other Members concerned, of any modifications in the laws and regulations in force on workmen's compensation.

Article 5.

The formal ratifications of this Convention under the conditions set forth in Part XIII of the Treaty of Versailles and in the corresponding Parts of the other Treaties of Peace shall be communicated to the Secretary-General of the League of Nations for registration.

Article 6.

This Convention shall come into force at the date on which the ratifications of two Members of the International Labour Organisation have been registered by the Secretary-General.

It shall be binding only upon those Members whose ratifications have been registered with the Secretariat.

Thereafter, the Convention shall come into force for any

Article 1.

Tout Membre de l'Organisation internationale du Travail qui ratifie la présente Convention s'engage à accorder aux ressortissants de tout autre Membre ayant ratifié la dite Convention qui seront victimes d'accidents du travail survenus sur son territoire, ou à leurs ayants droit, le même traitement qu'il assure à ses propres ressortissants en matière de réparation des accidents du travail.

Cette égalité de traitement sera assurée aux travailleurs étrangers et à leurs ayants droit sans aucune condition de résidence. Toutefois, en ce qui concerne les paiements qu'un Membre ou ses ressortissants auraient à faire en dehors du territoire du dit Membre en vertu de ce principe, les dispositions à prendre seront réglées, si cela est nécessaire, par des arrangements particuliers pris avec les Membres intéressés.

Article 2.

Pour la réparation des accidents du travail survenus à des travailleurs occupés d'une manière temporaire ou intermittente sur le territoire d'un Membre pour le compte d'une entreprise située sur le territoire d'un autre Membre, il peut être prévu qu'il sera fait application de la législation de ce dernier par accord spécial entre les Membres intéressés.

Article 3.

Les Membres qui ratifient la présente Convention et chez lesquels n'existe pas un régime d'indemnisation ou d'assurance

Article 1.

Each Member of the International Labour Organisation which ratifies this Convention undertakes to grant to the nationals of any other Member which shall have ratified the Convention, who suffer personal injury due to industrial accidents happening in its territory, or to their dependants, the same treatment in respect of workmen's compensation as it grants to its own nationals.

This equality of treatment shall be guaranteed to foreign workers and their dependants without any condition as to residence. With regard to the payments which a Member or its nationals would have to make outside that Member's territory in the application of this principle, the measures to be adopted shall be regulated, if necessary, by special arrangements between the Members concerned.

Article 2.

Special agreements may be made between the Members concerned to provide that compensation for industrial accidents happening to workers whilst temporarily or intermittently employed in the territory of one Member on behalf of an undertaking situated in the territory of another Member shall be governed by the laws and regulations of the latter Member.

Article 3.

The Members which ratify this Convention and which do not already possess a system, whether by insurance or

SOCIÉTÉ DES NATIONS

CONFÉRENCE INTERNATIONALE DU TRAVAIL

PROJET DE CONVENTION CONCERNANT L'ÉGALITÉ
DE TRAITEMENT DES TRAVAILLEURS ÉTRANGERS
ET NATIONAUX EN MATIÈRE DE RÉPARATION
DES ACCIDENTS DU TRAVAIL.

La Conférence générale de l'Organisation internationale
du Travail de la Société des Nations,

Convoquée à Genève par le Conseil d'administration
du Bureau international du Travail, et s'y étant réunie le
19 mai 1925, en sa septième session,

Après avoir décidé d'adopter diverses propositions
relatives à l'égalité de traitement des travailleurs nation-
aux et étrangers victimes d'accidents du travail, deuxième
question inscrite à l'ordre du jour de la session, et

Après avoir décidé que ces propositions prendraient
la forme d'un projet de convention internationale,
adopte, ce cinquième jour de juin mil neuf cent vingt-cinq, le
Projet de Convention ci-après à ratifier par les Membres
de l'Organisation internationale du Travail conformément aux
dispositions de la Partie XIII du Traité de Versailles et des
Parties correspondantes des autres Traités de Paix :

LEAGUE OF NATIONS

INTERNATIONAL LABOUR CONFERENCE

DRAFT CONVENTION CONCERNING EQUALITY
OF TREATMENT FOR NATIONAL AND FOREIGN
WORKERS AS REGARDS WORKMEN'S
COMPENSATION FOR ACCIDENTS.

The General Conference of the International Labour
Organisation of the League of Nations,

Having been convened at Geneva by the Governing
Body of the International Labour Office, and having met
in its Seventh Session on 19 May 1925, and

Having decided upon the adoption of certain pro-
posals with regard to the equality of treatment for
national and foreign workers as regards workmen's com-
pensation for accidents, the second item in the agenda of
the Session, and

Having determined that these proposals shall take
the form of a draft international convention,
adopts, this fifth day of June of the year one thousand nine
hundred and twenty-five, the following Draft Convention for
ratification by the Members of the International Labour
Organisation, in accordance with the provisions of Part XIII
of the Treaty of Versailles and of the corresponding Parts
of the other Treaties of Peace :

possibilité d'établir dans sa législation nationale une liste de maladies plus complète que celle contenue dans l'article 2 de la Convention concernant la réparation des maladies professionnelles,

La Conférence recommande

Que les Membres fixent, si elle n'existe pas encore, une procédure simple au moyen de laquelle la liste des maladies considérées comme maladies professionnelles dans leur législation nationale pourra être révisée.

Le texte qui précède est le texte authentique de la Recommandation dûment adoptée par la Conférence générale de l'Organisation internationale du Travail dans sa septième session qui s'est tenue à Genève et qui a été déclarée close le 10 juin 1925.

EN FOI DE QUOI ont apposé leurs signatures, le 24 juin 1925:

Le Président de la Conférence.

Dr. EDVARD BENEŠ.

Le Directeur du Bureau international du Travail.

ALBERT THOMAS.

establish under its national legislation a more complete list than that embodied in the Schedule appended to Article 2 of the Convention concerning workmen's compensation for occupational diseases,

The Conference recommends that

Each Member of the International Labour Organisation should adopt, where such procedure does not already exist, a simple procedure by which the list of diseases considered occupational in its national legislation may be revised.

The foregoing is the authentic text of the Recommendation duly adopted by the General Conference of the International Labour Organisation during its Seventh Session which was held at Geneva and declared closed the 10th day of June 1925.

IN FAITH WHEREOF we have appended our signatures this twenty-fourth day of June 1925.

The President of the Conference.

Dr. EDVARD BENEŠ.

The Director of the International Labour Office.

ALBERT THOMAS.

SOCIÉTÉ DES NATIONS

CONFÉRENCE INTERNATIONALE DU TRAVAIL

RECOMMANDATION CONCERNANT LA
RÉPARATION DES MALADIES
PROFESSIONNELLES.

La Conférence générale de l'Organisation internationale du Travail de la Société des Nations,

Convoquée à Genève par le Conseil d'administration du Bureau international du Travail, et s'y étant réunie le 19 mai 1925, en sa septième session,

Après avoir décidé d'adopter diverses propositions relatives à la réparation des maladies professionnelles, question comprise dans le premier point de l'ordre du jour de la session, et

Après avoir décidé que ces propositions prendraient la forme d'une recommandation, adopte, ce dixième jour de juin mil neuf cent vingt-cinq, la Recommandation ci-après à soumettre à l'examen des Membres de l'Organisation internationale du Travail, en vue de lui faire porter effet sous forme de loi nationale ou autrement, conformément aux dispositions de la Partie XIII du Traité de Versailles et des Parties correspondantes des autres Traités de Paix:

Tout en reconnaissant d'ailleurs que chaque pays a la

LEAGUE OF NATIONS

INTERNATIONAL LABOUR CONFERENCE

RECOMMENDATION CONCERNING WORKMEN'S
COMPENSATION FOR OCCUPATIONAL
DISEASES.

The General Conference of the International Labour Organisation of the League of Nations,

Having been convened at Geneva by the Governing Body of the International Labour Office, and having met in its Seventh Session on 19 May 1925, and

Having decided upon the adoption of certain proposals with regard to workmen's compensation for occupational diseases, which is included in the first item of the agenda of the Session, and

Having determined that these proposals should take the form of a recommendation,

adopts, this tenth day of June of the year one thousand nine hundred and twenty-five, the following Recommendation, to be submitted to the Members of the International Labour Organisation for consideration with a view to effect being given to it by national legislation or otherwise, in accordance with the provisions of Part XIII of the Treaty of Versailles and of the corresponding Parts of the other Treaties of Peace:

Whereas it is recognised that each State is free to

Nations et par lui enregistré. La dénonciation ne prendra effet qu'une année après avoir été enregistrée au Secrétariat.

Article 9.

Le Conseil d'administration du Bureau international du Travail devra, au moins une fois tous les dix ans, présenter à la Conférence générale un rapport sur l'application de la présente Convention et décidera s'il y a lieu d'inscrire à l'ordre du jour de la Conférence la question de la révision ou de la modification de la dite Convention.

Article 10.

Les textes français et anglais de la présente Convention feront foi l'un et l'autre.

Le texte qui précède est le texte authentique du Projet de Convention dûment adopté par la Conférence générale de l'Organisation internationale du Travail dans sa septième session, qui s'est tenue à Genève et qui a été déclarée close le 10 juin 1925.

EN FOI DE QUOI ont apposé leurs signatures, le 24 juin 1925:

Le Président de la Conférence.

Dr. EDVARD BENEŠ.

Le Directeur du Bureau international du Travail.

ALBERT THOMAS.

Nations for registration. Such denunciation shall not take effect until one year after the date on which it is registered with the Secretariat.

Article 9.

At least once in ten years, the Governing Body of the International Labour Office shall present to the General Conference a report on the working of this Convention and shall consider the desirability of placing on the agenda of the Conference the question of its revision or modification.

Article 10.

The French and English texts of this Convention shall both be authentic.

The foregoing is the authentic text of the Draft Convention duly adopted by the General Conference of the International Labour Organisation during its Seventh Session which was held at Geneva and declared closed the 10th day of June 1925.

IN FAITH WHEREOF we have appended our signatures this twenty-fourth day of June 1925.

The President of the Conference.

Dr. EDVARD BENEŠ.

The Director of the International Labour Office.

ALBERT THOMAS.

Article 5.

Aussitôt que les ratifications de deux Membres de l'Organisation internationale du Travail auront été enregistrées au Secrétariat, le Secrétaire général de la Société des Nations notifiera ce fait à tous les Membres de l'Organisation internationale du Travail. Il leur notifiera également l'enregistrement des ratifications qui lui seront ultérieurement communiquées par tous autres Membres de l'Organisation.

Article 6.

Sous réserve des dispositions de l'article 4, tout Membre qui ratifie la présente Convention s'engage à appliquer les dispositions des articles 1 et 2 au plus tard le 1^{er} janvier 1927 et à prendre telles mesures qui seront nécessaires pour rendre effectives ces dispositions.

Article 7.

Tout Membre de l'Organisation internationale du Travail qui ratifie la présente Convention s'engage à l'appliquer à ses colonies, possessions et protectorats, conformément aux dispositions de l'article 421 du Traité de Versailles et des articles correspondants des autres Traités de Paix.

Article 8.

Tout Membre ayant ratifié la présente Convention peut la dénoncer, à l'expiration d'une période de cinq années après la date de la mise en vigueur initiale de la convention, par un acte communiqué au Secrétaire général de la Société des

Article 5.

As soon as the ratifications of two Members of the International Labour Organisation have been registered with the Secretariat, the Secretary-General of the League of Nations shall so notify all the Members of the International Labour Organisation. He shall likewise notify them of the registration of ratifications which may be communicated subsequently by other Members of the Organisation.

Article 6.

Subject to the provisions of Article 4, each Member which ratifies this Convention agrees to bring the provisions of Articles 1 and 2 into operation not later than 1 January 1927 and to take such action as may be necessary to make these provisions effective.

Article 7.

Each Member of the International Labour Organisation which ratifies this Convention engages to apply it to its colonies, possessions and protectorates, in accordance with the provisions of Article 421 of the Treaty of Versailles and of the corresponding Articles of the other Treaties of Peace.

Article 8.

A Member which has ratified this Convention may denounce it after the expiration of five years from the date on which the Convention first comes into force, by an act communicated to the Secretary-General of the League of

	Emploi des pompes à mercure pour la fabrication des lampes à incandescence.
	Fabrication des amorces au fulminate de mercure.
Infection charbonneuse.	Ouvriers en contact avec des animaux charbonneux.
	Manipulation de débris d'animaux.
	Chargement, déchargement ou transport de marchandises.

Article 3.

Les ratifications officielles de la présente Convention dans les conditions prévues à la Partie XIII du Traité de Versailles et aux Parties correspondantes des autres Traités de Paix seront communiquées au Secrétaire général de la Société des Nations et par lui enregistrées.

Article 4.

La présente Convention entrera en vigueur dès que les ratifications de deux Membres de l'Organisation internationale du Travail auront été enregistrées par le Secrétaire général.

Elle ne liera que les Membres dont la ratification aura été enregistrée au Secrétariat.

Par la suite cette Convention entrera en vigueur pour chaque Membre à la date où sa ratification aura été enregistrée au Secrétariat.

Use of mercury pumps in the manufacture of incandescent lamps.

Manufacture of fulminate of mercury primers.

Anthrax infection. Work in connection with animals infected with anthrax.

Handling of animal carcasses or parts of such carcasses including hides, hoofs and horns.

Loading and unloading or transport of merchandise.

Article 3.

The formal ratifications of this Convention under the conditions set forth in Part XIII of the Treaty of Versailles and in the corresponding Parts of the other Treaties of Peace shall be communicated to the Secretary-General of the League of Nations for registration.

Article 4.

This Convention shall come into force at the date on which the ratifications of two Members of the International Labour Organisation have been registered by the Secretary-General.

It shall be binding only upon those Members whose ratifications have been registered with the Secretariat.

Thereafter, the Convention shall come into force for any Member at the date on which its ratification has been registered with the Secretariat.

TABLEAU.

Liste des maladies et des substances toxiques.

Intoxication par le plomb, ses alliages ou ses composés, avec les conséquences directes de cette intoxication.

Fabrication d'objets en plomb fondu ou en alliages plombifères.

Industries polygraphiques.

Fabrication des composés de plomb.

Fabrication et réparation des accumulateurs.

Préparation et emploi des émaux contenant du plomb.

Polissage au moyen de limaille de plomb ou de potée plombifère.

Travaux de peinture comportant la préparation ou la manipulation d'enduits, de mastics ou de teintes contenant des pigments de plomb.

Intoxication par le mercure, ses amalgames et ses composés, avec les conséquences directes de cette intoxication.

Liste des industries ou professions correspondantes.

Traitement des minerais contenant du plomb, y compris les cendres plumbeuses d'usines à zinc.

Fusion du vieux zinc et du plomb en saumon.

Fabrication d'objets en plomb fondu ou en alliages plombifères.

Industries polygraphiques.

Fabrication des composés de plomb.

Fabrication et réparation des accumulateurs.

Préparation et emploi des émaux contenant du plomb.

Polissage au moyen de limaille de plomb ou de potée plombifère.

Travaux de peinture comportant la préparation ou la manipulation d'enduits, de mastics ou de teintes contenant des pigments de plomb.

Traitement des minerais de mercure.

Fabrication des composés de mercure.

Fabrication des appareils de mesure ou de laboratoire.

Préparation des matières premières pour la chapellerie.

Dorure au feu.

SCHEDULE.

List of diseases and toxic substances.

Poisoning by lead, its alloys or compounds and their sequelae.

Fusion of old zinc and lead in saumon.

Manufacture of articles made of cast lead or of lead alloys.

Employment in the polygraphic industries.

Manufacture of lead compounds.

Manufacture and repair of electric accumulators.

Preparation and use of enamels containing lead.

Polishing by means of lead files or putty powder with a lead content.

All painting operations involving the preparation and manipulation of coating substances, cements or colouring substances containing lead pigments.

Poisoning by mercury, its amalgams and compounds and their sequelae.

Manufacture of mercury compounds.

Manufacture of measuring and laboratory apparatus.

Preparation of raw material for the hat-making industry.

Hot gilding.

List of corresponding industries and processes.

Handling of ore containing lead, including fine shot in zinc factories.

Casting of old zinc and lead in ingots.

Manufacture of articles made of cast lead or of lead alloys.

Employment in the polygraphic industries.

Manufacture of lead compounds.

Manufacture and repair of electric accumulators.

Preparation and use of enamels containing lead.

Polishing by means of lead files or putty powder with a lead content.

All painting operations involving the preparation and manipulation of coating substances, cements or colouring substances containing lead pigments.

Handling of mercury ore.

Manufacture of mercury compounds.

Manufacture of measuring and laboratory apparatus.

Preparation of raw material for the hat-making industry.

Hot gilding.

ratifiant la présente Convention s'engage à assurer aux victimes de maladies professionnelles ou à leurs ayants droit une réparation basée sur les principes généraux de sa législation nationale concernant la réparation des accidents du travail.

Le taux de cette réparation ne sera pas inférieur à celui que prévoit la législation nationale pour les dommages résultant d'accidents du travail. Sous réserve de cette disposition, chaque Membre sera libre, en déterminant dans sa législation nationale les conditions réglant le paiement de la réparation des maladies dont il s'agit, et en appliquant à ces maladies sa législation relative à la réparation des accidents du travail, d'adopter les modifications et adaptations qui lui sembleraient expédientes.

Article 2.

Tout Membre de l'Organisation internationale du Travail ratifiant la présente Convention s'engage à considérer comme maladies professionnelles les maladies ainsi que les intoxications produites par les substances inscrites sur le tableau ci-après, lorsque ces maladies ou intoxications surviennent à des travailleurs appartenant aux industries ou professions qui y correspondent dans le dit tableau et résultent du travail dans une entreprise assujettie à la législation nationale.

which ratifies this Convention undertakes to provide that compensation shall be payable to workmen incapacitated by occupational diseases, or, in case of death from such diseases, to their dependants, in accordance with the general principles of the national legislation relating to compensation for industrial accidents.

The rates of such compensation shall be not less than those prescribed by the national legislation for injury resulting from industrial accidents. Subject to this provision, each Member, in determining in its national law or regulations the conditions under which compensation for the said diseases shall be payable, and in applying to the said diseases its legislation in regard to compensation for industrial accidents, may make such modifications and adaptations as it thinks expedient.

Article 2.

Each Member of the International Labour Organisation which ratifies this Convention undertakes to consider as occupational diseases those diseases and poisonings produced by the substances set forth in the Schedule appended hereto, when such diseases or such poisonings affect workers engaged in the trades or industries placed opposite in the said Schedule, and result from occupation in an undertaking covered by the said national legislation.

SOCIÉTÉ DES NATIONS

CONFÉRENCE INTERNATIONALE DU TRAVAIL

PROJET DE CONVENTION CONCERNANT LA
RÉPARATION DES MALADIES
PROFESSIONNELLES.

La Conférence générale de l'Organisation internationale du Travail de la Société des Nations,

Convoquée à Genève par le Conseil d'administration du Bureau international du Travail, et s'y étant réunie le 19 mai 1925, en sa septième session,

Après avoir décidé d'adopter diverses propositions relatives à la réparation des maladies professionnelles, question comprise dans le premier point de l'ordre du jour de la session, et

Après avoir décidé que ces propositions prendraient la forme d'un projet de convention internationale, adopte, ce dixième jour de juin mil neuf cent vingt-cinq, le Projet de Convention ci-après à ratifier par les Membres de l'Organisation internationale du Travail conformément aux dispositions de la Partie XIII du Traité de Versailles et des Parties correspondantes des autres Traités de Paix:

Article 1.

Tout Membre de l'Organisation internationale du Travail

LEAGUE OF NATIONS

INTERNATIONAL LABOUR CONFERENCE

DRAFT CONVENTION CONCERNING
WORKMEN'S COMPENSATION FOR
OCCUPATIONAL DISEASES.

The General Conference of the International Labour Organisation of the League of Nations,

Having been convened at Geneva by the Governing Body of the International Labour Office, and having met in its Seventh Session on 19 May 1925, and

Having decided upon the adoption of certain proposals with regard to workmen's compensation for occupational diseases, which is included in the first item of the agenda of the Session, and

Having determined that these proposals shall take the form of a draft international convention, adopts, this tenth day of June of the year one thousand nine hundred and twenty-five, the following Draft Convention for ratification by the Members of the International Labour Organisation, in accordance with the provisions of Part XIII of the Treaty of Versailles and of the corresponding Parts of the other Treaties of Peace:

Article 1.

Each Member of the International Labour Organisation

par les représentants patronaux et ouvriers auprès d'autres institutions sociales ou élus par des collèges distincts de patrons et d'ouvriers.

II.

Lorsque les conflits relatifs à la réparation des accidents du travail sont évoqués devant les juridictions ordinaires, ces juridictions devront, à la demande de l'un ou de l'autre des intéressés, entendre, en qualité d'experts, des ouvriers et des employeurs, toutes les fois que le conflit portera sur une question professionnelle et notamment sur l'appréciation du degré d'incapacité de gain.

Le texte qui précède est le texte authentique de la Recommandation dûment adoptée par la Conférence générale de l'Organisation internationale du Travail, dans sa septième session qui s'est tenue à Genève et qui a été déclarée close le 10 juin 1925.

EN FOI DE QUOI ont apposé leurs signatures, le 24 juin 1925:

Le Président de la Conférence.

Dr. EDVARD BENEŠ.

Le Directeur du Bureau international du Travail.

ALBERT THOMAS.

sations or comprising employers' and workmen's representatives drawn from other social institutions or elected by separate electoral bodies of employers and workmen.

II.

That, where disputes relating to workmen's compensation are dealt with by the ordinary courts of law, such courts shall be required, on the request of either of the parties concerned, to hear employers' and workmen's representatives as experts in any case where the dispute involves a question of an occupational character, and in particular the question of the degree of incapacity for work.

The foregoing is the authentic text of the Recommendation duly adopted by the General Conference of the International Labour Organisation during its Seventh Session which was held at Geneva and declared closed the 10th day of June 1925.

IN FAITH WHEREOF we have appended our signatures this twenty-fourth day of June 1925.

The President of the Conference.

Dr. EDVARD BENEŠ.

The Director of the International Labour Office.

ALBERT THOMAS.

Considérant que les conflits relatifs à la réparation des accidents du travail portent non seulement sur l'interprétation des textes des lois et règlements, mais aussi sur des problèmes professionnels qui exigent une connaissance approfondie des conditions du travail: notamment nature des entreprises, caractère des risques qu'elles présentent, relation entre le travail et l'accident, mode de détermination du salaire, degré d'incapacité de gain, possibilité d'adaptation à une profession nouvelle,

Considérant que les travailleurs et les employeurs présentent des garanties de compétence professionnelle et que leur participation aux juridictions chargées de se prononcer sur les conflits relatifs à la réparation des accidents du travail peut permettre d'aboutir à des solutions plus équitables; et

Considérant que la participation des employeurs et des ouvriers à ces juridictions peut être réalisée dans beaucoup de pays sans porter atteinte à l'organisation judiciaire,

La Conférence générale recommande à chaque Membre de l'Organisation internationale du Travail de prendre en considération les principes et les règles suivants:

I.

Les conflits relatifs à la réparation des accidents du travail doivent être de préférence soumis à des tribunaux spéciaux ou des Commissions arbitrales, comprenant avec ou sans magistrats de carrière un nombre égal de juges, ouvriers et patrons, nommés respectivement par les associations d'ouvriers ou de patrons ou désignés sur leur proposition, ou

Whereas disputes on workmen's compensation turn not only on the interpretation of laws and regulations, but also on questions of an occupational character requiring a thorough knowledge of working conditions, for example, questions as to the nature of the undertaking, the kind of risk inherent in it, the relation between the workman's employment and the accident, the method of computing earnings, the degree of incapacity for work, the possibility of the workman's adapting himself to some other occupation,

And whereas workmen and employers have the necessary knowledge and experience on these questions, and disputes on compensation matters might be more equitably settled if they were members of or associated with the courts which have to decide such disputes,

And whereas it is possible in many countries to secure the association of employers and workmen with such courts, as members or otherwise, without departing radically from the existing judicial system,

The General Conference recommends that each Member of the International Labour Organisation should take the following principles and rules into consideration:

I.

That every dispute relating to workmen's compensation should preferably be dealt with by a special court or board of arbitration comprising, with or without the addition of regular judges, an equal number of employers' and workmen's representatives appointed to act as adjudicators by their respective organisations or on the nomination of such organi-

SOCIÉTÉ DES NATIONS

CONFÉRENCE INTERNATIONALE DU TRAVAIL

RECOMMANDATION CONCERNANT LES JURIDICTIONS COMPÉTENTES POUR LA SOLUTION DES CONFLITS RELATIFS A LA RÉPARATION DES ACCIDENTS DU TRAVAIL.

La Conférence générale de l'Organisation internationale du Travail de la Société des Nations,

Convoquée à Genève par le Conseil d'administration du Bureau international du Travail, et s'y étant réunie le 19 mai 1925, en sa septième session,

Après avoir décidé d'adopter diverses propositions concernant les juridictions compétentes pour la solution des conflits relatifs à la réparation des accidents du travail, question comprise dans la première question à l'ordre du jour de la session, et

Après avoir décidé que ces propositions prendraient la forme d'une recommandation, adopte, ce dixième jour de juin mil neuf cent vingt-cinq la Recommandation ci-après à soumettre à l'examen des Membres de l'Organisation internationale du Travail, en vue de lui faire porter effet sous forme de loi nationale ou autrement, conformément aux dispositions de la Partie XIII du Traité de Versailles et des Parties correspondantes des autres Traités de Paix:

LEAGUE OF NATIONS

INTERNATIONAL LABOUR CONFERENCE

RECOMMENDATION CONCERNING JURISDICTION IN DISPUTES ON WORKMEN'S COMPENSATION.

The General Conference of the International Labour Organisation of the League of Nations,

Having been convened at Geneva by the Governing Body of the International Labour Office, and having met in its Seventh Session on 19 May 1925, and

Having decided upon the adoption of certain proposals with regard to jurisdiction in disputes on workmen's compensation, which is included in the first item of the agenda of the Session, and

Having determined that these proposals should take the form of a recommendation, adopts, this tenth day of June of the year one thousand nine hundred and twenty-five, the following Recommendation, to be submitted to the Members of the International Labour Organisation for consideration with a view to effect being given to it by national legislation or otherwise, in accordance with the provisions of Part XIII of the Treaty of Versailles and of the corresponding Parts of the other Treaties of Peace:

Lorsque l'indemnisation a lieu sous forme de capital, la limite maximum du montant des versements en capital pour l'ensemble des ayants droit ne pourra être inférieure à la valeur capitalisée d'une rente correspondant aux deux tiers du salaire annuel de la victime de l'accident.

IV.

La rééducation professionnelle des victimes des accidents du travail devra être assurée par les moyens que les législations nationales jugeront le mieux appropriés.

Les Gouvernements devront encourager les institutions poursuivant cette rééducation.

Le texte qui précède est le texte authentique de la Recommandation dûment adoptée par la Conférence générale de l'Organisation internationale du Travail dans sa septième session qui s'est tenue à Genève et qui a été déclarée close le 10 juin 1925.

EN FOI DE QUOI ont apposé leurs signatures, le 24 juin 1925:

Le Président de la Conférence.

Dr. EDVARD BENEŠ.

Le Directeur du Bureau international du Travail.

ALBERT THOMAS.

Where compensation is paid in a lump sum, the maximum sum payable to all the dependants should not be less than the capitalised value of periodical payments equivalent to two-thirds of the deceased's annual earnings.

IV.

The vocational re-education of injured workmen should be provided by such means as the national laws or regulations deem most suitable.

Governments should encourage institutions which undertake such re-education.

The foregoing is the authentic text of the Recommendation duly adopted by the General Conference of the International Labour Organisation during its Seventh Session which was held at Geneva and declared closed the 10th day of June 1925.

IN FAITH WHEREOF we have appended our signatures this twenty-fourth day of June 1925.

The President of the Conference.

Dr. EDVARD BENEŠ.

The Director of the International Labour Office.

ALBERT THOMAS.

II.

Les victimes d'accidents atteintes d'infirmités nécessitant l'assistance constante d'une autre personne devront recevoir un supplément d'indemnisation qui ne pourra être inférieur à la moitié de l'indemnité allouée en cas d'incapacité permanente totale.

III.

En cas d'accident suivi de décès, le droit à indemnité devra être reconnu au moins aux catégories d'ayants droit ci-après :

- 1) le conjoint du décédé;
- 2) les enfants du décédé, âgés de moins de dix-huit ans, ou sans limite d'âge s'ils sont atteints d'infirmités physiques ou mentales les rendant incapables de gain;
- 3) les ascendants (parents ou grands-parents) du décédé, s'ils sont sans ressources, et à la condition qu'ils aient été à la charge du décédé ou que ce dernier ait eu à leur égard une obligation d'assistance;
- 4) les petits-enfants et les frères et sœurs du décédé s'ils sont âgés de moins de dix-huit ans (ou sans limite d'âge s'ils sont atteints d'infirmités physiques ou mentales les rendant incapables de gain) et s'ils sont orphelins ou si leurs parents vivants sont incapables d'assurer leur subsistance.

Lorsque l'indemnisation a lieu sous forme de rente, la limite maximum du total des sommes allouées annuellement à l'ensemble des ayants droit ne pourra être inférieure aux deux tiers du salaire annuel de la victime de l'accident.

II.

Where the injury is such that the workman requires the constant help of another person, additional compensation should be paid to the workman, which should not be less than half the amount payable in the case of permanent total incapacity.

III.

Where death results from the injury, those entitled to be regarded as dependants for purposes of compensation should include at least the following:

- (1) deceased's husband or wife;
- (2) deceased's children under eighteen years of age, or above that age if, by reason of physical or mental infirmity, they are incapable of earning;
- (3) deceased's ascendants (parents or grandparents), provided that they are without means of subsistence and were dependent on the deceased, or the deceased was under an obligation to contribute towards their maintenance;
- (4) deceased's grandchildren and brothers and sisters, if below eighteen years of age, or above that age if, by reason of physical or mental infirmity, they are incapable of earning, and if they are orphans, or if their parents, though still living, are incapable of providing for them.

Where compensation is paid by means of periodical payments, the maximum total of the yearly sum payable to all the dependants should not be less than two-thirds of the deceased's annual earnings.

La Conférence générale recommande à chaque Membre de l'Organisation internationale du Travail de prendre en considération les principes et les règles suivants:

I.

En cas d'accident suivi d'incapacité de gain, les indemnités que devront accorder les législations ou réglementations nationales ne pourront être inférieures aux taux ci-après:

1) En cas d'incapacité permanente totale, à une rente correspondant aux deux tiers du salaire annuel de la victime;

2) En cas d'incapacité permanente partielle, à une fraction de la rente due en cas d'incapacité permanente totale, correspondant à la réduction de la capacité de gain causée par l'accident;

3) En cas d'incapacité temporaire totale, à une allocation journalière ou hebdomadaire égale aux deux tiers du salaire de base de la victime;

4) En cas d'incapacité temporaire partielle, à une fraction de l'allocation journalière ou hebdomadaire due en cas d'incapacité temporaire totale, correspondant à la réduction de la capacité de gain causée par l'accident.

Lorsque l'indemnisation aura lieu sous forme de somme globale, cette somme ne devra pas être inférieure à la valeur capitalisée de la rente correspondante.

The General Conference recommends that each Member of the International Labour Organisation should take the following principles and rules into consideration:

I.

Where incapacity for work results from the injury, the national laws or regulations should provide for the payment of compensation at rates not lower than those hereinafter indicated:

(1) In the case of permanent total incapacity, a periodical payment equivalent to two-thirds of the workman's annual earnings;

(2) In case of permanent partial incapacity, a proportion of the periodical payment due in the event of permanent total incapacity calculated in reference to the reduction of earning power caused by the injury;

(3) In case of temporary total incapacity, a daily or weekly payment equivalent to two-thirds of the workman's basic earnings as calculated for purposes of compensation;

(4) In case of temporary partial incapacity, a proportion of the daily or weekly payment payable in the case of temporary total incapacity calculated in reference to the reduction of earning power caused by the injury.

Where compensation is paid in a lump sum, the sum should not be less than the capitalised value of the periodical payment which would be payable under the foregoing paragraphs.

SOCIÉTÉ DES NATIONS

CONFÉRENCE INTERNATIONALE DU TRAVAIL

RECOMMANDATION CONCERNANT LE MONTANT
MINIMUM DES INDEMNITÉS EN MATIÈRE DE
RÉPARATION DES ACCIDENTS DU TRAVAIL.

La Conférence générale de l'Organisation internationale
du Travail de la Société des Nations,

Convoquée à Genève par le Conseil d'administration du
Bureau international du Travail, et s'y étant réunie le
19 mai 1925, en sa septième session,

Après avoir décidé d'adopter diverses propositions con-
cernant le montant minimum des indemnités en matière
de réparation des accidents du travail, question comprise
dans la première question à l'ordre du jour de la session,
et

Après avoir décidé que ces propositions prendraient la
forme d'une recommandation,
adopte, ce dixième jour de juin mil neuf cent vingt-cinq, la
Recommandation ci-après à soumettre à l'examen des Membres
de l'Organisation internationale du Travail, en vue de lui faire
porter effet sous forme de loi nationale ou autrement, con-
formément aux dispositions de la Partie XIII du Traité de
Versailles et des Parties correspondantes des autres Traités
de Paix:

LEAGUE OF NATIONS

INTERNATIONAL LABOUR CONFERENCE

RECOMMENDATION CONCERNING THE
MINIMUM SCALE OF WORKMEN'S
COMPENSATION.

The General Conference of the International Labour
Organisation of the League of Nations,

Having been convened at Geneva by the Governing
Body of the International Labour Office, and having
met in its Seventh Session on 19 May 1925, and

Having decided upon the adoption of certain pro-
posals with regard to the minimum scale of workmen's
compensation, which is included in the first item of the
agenda of the Session, and

Having determined that these proposals should take
the form of a recommendation,
adopts, this tenth day of June of the year one thousand nine
hundred and twenty-five, the following Recommendation, to
be submitted to the Members of the International Labour
Organisation for consideration with a view to effect being
given to it by national legislation or otherwise, in accordance
with the provisions of Part XIII of the Treaty of Versailles
and of the corresponding Parts of the other Treaties of
Peace:

Article 18.

Le Conseil d'administration du Bureau international du Travail devra, au moins une fois tous les dix ans, présenter à la Conférence générale un rapport sur l'application de la présente Convention et décidera s'il y a lieu d'inscrire à l'ordre du jour de la Conférence la question de la revision ou de la modification de la dite Convention.

Article 19.

Les textes français et anglais de la présente Convention feront foi l'un et l'autre.

Le texte qui précède est le texte authentique du Projet de Convention dûment adopté par la Conférence générale de l'Organisation internationale du Travail dans sa septième session qui s'est tenue à Genève et qui a été déclarée close le 10 juin 1925.

En FOI DE QUOI ont apposé leurs signatures, le 24 juin 1925:

Le Président de la Conférence.

Dr. EDVARD BENEŠ.

Le Directeur du Bureau international du Travail.

ALBERT THOMAS.

Article 18.

At least once in ten years, the Governing Body of the International Labour Office shall present to the General Conference a report on the working of this Convention and shall consider the desirability of placing on the agenda of the Conference the question of its revision or modification.

Article 19.

The French and English texts of this Convention shall both be authentic.

The foregoing is the authentic text of the Draft Convention duly adopted by the General Conference of the International Labour Organisation during its Seventh Session which was held at Geneva and declared closed the 10th day of June 1925.

IN FAITH WHEREOF we have appended our signatures this twenty-fourth day of June 1925.

The President of the Conference.

Dr. EDVARD BENEŠ.

The Director of the International Labour Office.

ALBERT THOMAS.

l'Organisation internationale du Travail auront été enregistrées au Secrétariat, le Secrétaire général de la Société des Nations notifiera ce fait à tous les Membres de l'Organisation internationale du Travail. Il leur notifiera également l'enregistrement des ratifications qui lui seront ultérieurement communiquées par tous autres Membres de l'Organisation.

Article 15.

Sous réserve des dispositions de l'article 13, tout Membre qui ratifie la présente Convention s'engage à appliquer les dispositions des articles 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10 et 11 au plus tard le 1^{er} janvier 1927 et à prendre telles mesures qui seront nécessaires pour rendre effectives ces dispositions.

Article 16.

Tout Membre de l'Organisation internationale du Travail qui ratifie la présente Convention s'engage à l'appliquer à ses colonies, possessions ou protectorats, conformément aux dispositions de l'article 421 du Traité de Versailles et des articles correspondants des autres Traités de Paix.

Article 17.

Tout Membre ayant ratifié la présente Convention peut la dénoncer, à l'expiration d'une période de cinq années après la date de la mise en vigueur initiale de la Convention, par un acte communiqué au Secrétaire général de la Société des Nations et par lui enregistré. La dénonciation ne prendra effet qu'une année après avoir été enregistrée au Secrétariat.

national Labour Organisation have been registered with the Secretariat, the Secretary-General of the League of Nations shall so notify all the Members of the International Labour Organisation. He shall likewise notify them of the registration of ratifications which may be communicated subsequently by other Members of the Organisation.

Article 15.

Subject to the provisions of Article 13, each Member which ratifies this Convention agrees to bring the provisions of Articles 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10 and 11 into operation not later than 1 January 1927 and to take such action as may be necessary to make these provisions effective.

Article 16.

Each Member of the International Labour Organisation which ratifies this Convention engages to apply it to its colonies, possessions and protectorates, in accordance with the provisions of Article 421 of the Treaty of Versailles and of the corresponding Articles of the other Treaties of Peace.

Article 17.

A Member which has ratified this Convention may denounce it after the expiration of five years from the date on which the Convention first comes into force, by an act communicated to the Secretary-General of the League of Nations for registration. Such denunciation shall not take effect until one year after the date on which it is registered with the Secretariat.

Article 11.

Les législations nationales contiendront des dispositions qui, tenant compte des conditions particulières de chaque pays, seront le mieux appropriées pour assurer en tout état de cause le paiement de la réparation aux victimes des accidents et à leurs ayants droit et pour les garantir contre l'insolvabilité de l'employeur ou de l'assureur.

Article 12.

Les ratifications officielles de la présente Convention dans les conditions prévues à la Partie XIII du Traité de Versailles et aux Parties correspondantes des autres Traités de Paix seront communiquées au Secrétariat général de la Société des Nations et par lui enregistrées.

Article 13.

La présente Convention entrera en vigueur dès que les ratifications de deux Membres de l'Organisation internationale du Travail auront été enregistrées par le Secrétaire général.

Elle ne liera que les Membres dont la ratification aura été enregistrée au Secrétariat.

Par la suite, cette Convention entrera en vigueur pour chaque Membre à la date où sa ratification aura été enregistrée au Secrétariat.

Article 14.

Aussitôt que les ratifications de deux Membres de

Article 11.

The national laws or regulations shall make such provision as, having regard to national circumstances, is deemed most suitable for ensuring in all circumstances, in the event of the insolvency of the employer or insurer, the payment of compensation to workmen who suffer personal injury due to industrial accidents, or in case of death, to their dependants.

Article 12.

The formal ratifications of this Convention under the conditions set forth in Part XIII of the Treaty of Versailles and in the corresponding Parts of the other Treaties of Peace shall be communicated to the Secretary-General of the League of Nations for registration.

Article 13.

This Convention shall come into force at the date on which the ratifications of two Members of the International Labour Organisation have been registered by the Secretary-General.

It shall be binding only upon those Members whose ratifications have been registered with the Secretariat.

Thereafter, the Convention shall come into force for any Member at the date on which its ratification has been registered with the Secretariat.

Article 14.

As soon as the ratifications of two Members of the Inter-

trôle, ainsi que les méthodes pour la revision des indemnités, qui seront jugées nécessaires.

Article 9.

Les victimes d'accidents du travail auront droit à l'assistance médicale et à telle assistance chirurgicale et pharmaceutique qui serait reconnue nécessaire par suite de ces accidents. Cette assistance médicale sera à la charge soit de l'employeur, soit des institutions d'assurance contre les accidents, soit des institutions d'assurance contre la maladie ou l'invalidité.

Article 10.

Les victimes d'accidents du travail auront droit à la fourniture et au renouvellement normal, par l'employeur ou l'assureur, des appareils de prothèse et d'orthopédie dont l'usage sera reconnu nécessaire. Toutefois, les législations nationales pourront admettre à titre exceptionnel le remplacement de la fourniture et du renouvellement des appareils par l'attribution à la victime de l'accident d'une indemnité supplémentaire déterminée au moment de la fixation ou de la revision du montant de la réparation et représentant le coût probable de la fourniture et du renouvellement de ces appareils.

Les législations nationales prévoieront, en ce qui concerne le renouvellement des appareils, les mesures de contrôle nécessaires, soit pour éviter les abus, soit pour garantir l'affectation des indemnités supplémentaires.

measures of supervision and methods of review as are deemed necessary.

Article 9.

Injured workmen shall be entitled to medical aid and to such surgical and pharmaceutical aid as is recognised to be necessary in consequence of accidents. The cost of such aid shall be defrayed either by the employer, by accident insurance institutions, or by sickness or invalidity insurance institutions.

Article 10.

Injured workmen shall be entitled to the supply and normal renewal, by the employer or insurer, of such artificial limbs and surgical appliances as are recognised to be necessary: provided that national laws or regulations may allow in exceptional circumstances the supply and renewal of such artificial limbs and appliances to be replaced by the award to the injured workman of a sum representing the probable cost of the supply and renewal of such appliances, this sum to be decided at the time when the amount of compensation is settled or revised.

National laws or regulations shall provide for such supervisory measures as are necessary, either to prevent abuses in connection with the renewal of appliances, or to ensure that the additional compensation is utilised for this purpose.

moins équivalent à celui prévu dans la présente Convention.

Article 4.

La présente Convention ne s'appliquera pas à l'agriculture pour laquelle reste en vigueur la Convention sur la réparation des accidents du travail dans l'agriculture, adoptée par la Conférence internationale du Travail à sa troisième session.

Article 5.

Les indemnités dues en cas d'accidents suivis de décès ou en cas d'accidents ayant entraîné une incapacité permanente seront payées à la victime ou à ses ayants droit sous forme de rente.

Toutefois, ces indemnités pourront être payées en totalité ou en partie sous forme de capital lorsque la garantie d'un emploi judicieux sera fournie aux autorités compétentes.

Article 6.

En cas d'incapacité, l'indemnité sera allouée au plus tard à partir du cinquième jour après l'accident, qu'elle soit due par l'employeur, par une institution d'assurance contre les accidents, ou par une institution d'assurance contre la maladie.

Article 7.

Un supplément d'indemnisation sera alloué aux victimes d'accidents atteintes d'incapacité nécessitant l'assistance constante d'une autre personne.

Article 8.

Les législations nationales prévoieront les mesures de con-

of which are not less favourable than those of this Convention.

Article 4.

This Convention shall not apply to agriculture, in respect of which the Convention concerning workmen's compensation in agriculture adopted by the International Labour Conference at its Third Session remains in force.

Article 5.

The compensation payable to the injured workman, or his dependants, where permanent incapacity or death results from the injury, shall be paid in the form of periodical payments: provided that it may be wholly or partially paid in a lump sum, if the competent authority is satisfied that it will be properly utilised.

Article 6.

In case of incapacity, compensation shall be paid not later than as from the fifth day after the accident, whether it be payable by the employer, the accident insurance institution, or the sickness insurance institution concerned.

Article 7.

In cases where the injury results in incapacity of such a nature that the injured workman must have the constant help of another person, additional compensation shall be provided.

Article 8.

The national laws or regulations shall prescribe such

qui ratifie la présente Convention s'engage à assurer aux victimes d'accidents du travail, ou à leur ayants droit, des conditions de réparation au moins égales à celles prévues par la présente Convention.

Article 2.

Les législations et réglementations sur la réparation des accidents du travail devront s'appliquer aux ouvriers, employés ou apprentis occupés par les entreprises, exploitations ou établissements de quelque nature qu'ils soient, publics ou privés.

Toutefois, il appartiendra à chaque Membre de prévoir dans sa législation nationale telles exceptions qu'il estimera nécessaires en ce qui concerne:

- a) les personnes exécutant des travaux occasionnels étrangers à l'entreprise de l'employeur;
- b) les travailleurs à domicile;
- c) les membres de la famille de l'employeur qui travaillent exclusivement pour le compte de celui-ci et qui vivent sous son toit;
- d) les travailleurs non manuels dont le gain dépasse une limite qui peut être fixée par la législation nationale.

Article 3.

Ne sont pas visés par la présente Convention:

- 1) les marins et pêcheurs pour lesquels disposera une convention ultérieure;
- 2) les personnes bénéficiant d'un régime spécial au

which ratifies this Convention undertakes to ensure that workmen who suffer personal injury due to an industrial accident, or their dependants, shall be compensated on terms at least equal to those provided by this Convention.

Article 2.

The laws and regulations as to workmen's compensation shall apply to workmen, employees and apprentices employed by any enterprise, undertaking or establishment of whatsoever nature, whether public or private.

It shall nevertheless be open to any Member to make such exceptions in its national legislation as it deems necessary in respect of:

- (a) persons whose employment is of a casual nature and who are employed otherwise than for the purpose of the employer's trade or business;
- (b) out-workers;
- (c) members of the employer's family who work exclusively on his behalf and who live in his house;
- (d) non-manual workers whose remuneration exceeds a limit to be determined by national laws or regulations.

Article 3.

This Convention shall not apply to

- (1) seamen and fishermen for whom provision shall be made by a later Convention;
- (2) persons covered by some special scheme, the terms

5
4
SOCIÉTÉ DES NATIONS

CONFÉRENCE INTERNATIONALE DU TRAVAIL

PROJET DE CONVENTION CONCERNANT
LA RÉPARATION DES ACCIDENTS
DU TRAVAIL.

La Conférence générale de l'Organisation internationale
du Travail de la Société des Nations,

Convoquée à Genève par le Conseil d'administration
du Bureau international du Travail, et s'y étant réunie le
19 mai 1925, en sa septième session,

Après avoir décidé d'adopter diverses propositions
relatives à la réparation des accidents du travail, ques-
tion comprise dans le premier point de l'ordre du jour
de la session, et

Après avoir décidé que ces propositions prendraient
la forme d'un projet de convention internationale,
adopte, ce dixième jour de juin mil neuf cent vingt-cinq, le
Projet de Convention ci-après à ratifier par les Membres de
l'Organisation internationale du Travail conformément aux
dispositions de la Partie XIII du Traité de Versailles et des
Parties correspondantes des autres Traités de Paix:

Article 1.

Tout Membre de l'Organisation internationale du Travail

LEAGUE OF NATIONS

INTERNATIONAL LABOUR CONFERENCE

DRAFT CONVENTION CONCERNING
WORKMEN'S COMPENSATION
FOR ACCIDENTS.

The General Conference of the International Labour
Organisation of the League of Nations,

Having been convened at Geneva by the Governing
Body of the International Labour Office, and having met
in its Seventh Session on 19 May 1925, and

Having decided upon the adoption of certain pro-
posals with regard to workmen's compensation for ac-
cidents, which is included in the first item of the agenda
of the Session, and

Having determined that these proposals shall take
the form of a draft international convention,
adopts, this tenth day of June of the year one thousand nine
hundred and twenty-five, the following Draft Convention for
ratification by the Members of the International Labour
Organisation, in accordance with the provisions of Part XIII
of the Treaty of Versailles and of the corresponding Parts
of the other Treaties of Peace:

Article 1.

Each Member of the International Labour Organisation

5
4

TABLE OF CONTENTS

1	Recommendation concerning the minimum scale of workmen's compensation
8	Recommendation concerning jurisdiction in disputes on workmen's compensation
13	Recommendation concerning equality of treatment for occupational diseases
15	Recommendation concerning workmen's compensation for occupational diseases
21	Recommendation concerning equality of treatment for national and foreign workers as regards workmen's compensation for accidents
23	Recommendation concerning equality of treatment for national and foreign workers as regards workmen's compensation for accidents
25	Recommendation concerning right in labour

SOCIÉTÉ DES NATIONS

CONFÉRENCE INTERNATIONALE DU TRAVAIL

PROJET DE CONVENTION CONCERNANT LA RÉPARATION DES ACCIDENTS DU TRAVAIL

La Conférence générale de l'Organisation internationale du Travail de la Société des Nations, réunie à Genève le 22 septembre 1919, a adopté le projet de Convention internationale relative à la réparation des accidents du travail, qui est annexé au présent rapport. Ce projet a été adopté par le Bureau international du Travail, et y a été rendu le 19 mai 1920, en sa septième session.

Après avoir décidé d'adopter diverses propositions relatives à la réparation des accidents du travail, qu'elle a adoptées dans le premier point de l'ordre du jour de la session, et

Après avoir décidé que ces propositions prendraient la forme d'un projet de convention internationale, elle a adopté, ce dixième jour de juin mil neuf cent vingt-cinq, le projet de Convention et après l'avoir fait adopter par l'Organisation internationale du Travail conformément aux dispositions de la Partie XIII du Traité de Versailles et des Parties correspondantes des autres Traités de Paix.

Article 1.

Tout Membre de l'Organisation internationale du Travail

5
4

TABLE DES MATIÈRES.

	Pages
Projet de Convention concernant la réparation des accidents du travail	1
Recommandation concernant le montant minimum des indemnités en matière de réparation des accidents du travail... ..	8
Recommandation concernant les juridictions compétentes pour la solution des conflits relatifs à la réparation des accidents du travail	12
Projet de Convention concernant la réparation des maladies professionnelles	15
Recommandation concernant la réparation des maladies professionnelles	21
Projet de Convention concernant l'égalité de traitement des travailleurs étrangers et nationaux en matière de réparation des accidents du travail... ..	23
Recommandation concernant l'égalité de traitement des travailleurs étrangers et nationaux en matière de réparation des accidents du travail	28
Projet de Convention concernant le travail de nuit dans les boulangeries... ..	31

TABLE OF CONTENTS.

	Page.
Draft Convention concerning workmen's compensation for accidents	1
Recommendation concerning the minimum scale of workmen's compensation	8
Recommendation concerning jurisdiction in disputes on workmen's compensation	12
Draft Convention concerning workmen's compensation for occupational diseases... ..	15
Recommendation concerning workmen's compensation for occupational diseases... ..	21
Draft Convention concerning equality of treatment for national and foreign workers as regards workmen's compensation for accidents	23
Recommendation concerning equality of treatment for national and foreign workers as regards workmen's compensation for accidents	28
Draft Convention concerning night work in bakeries ...	31

5
4

524
495

TABLA DES MATIÈRES

1	Projet de Convention concernant la réparation des accidents du travail
8	Recommandation concernant le paiement minimum des indemnités en matière de réparation des accidents du travail
12	Projet de Convention concernant la réparation des accidents du travail
15	Recommandation concernant la réparation des maladies professionnelles
21	Projet de Convention concernant l'égalité de traitement des travailleurs étrangers et nationaux en matière de réparation des accidents du travail
23	Recommandation concernant l'égalité de traitement des travailleurs étrangers et nationaux en matière de réparation des accidents du travail
28	Projet de Convention concernant le travail de nuit dans les boulangeries

5
4

SOCIÉTÉ DES NATIONS

LEAGUE OF NATIONS

CONFÉRENCE INTERNATIONALE DU TRAVAIL
INTERNATIONAL LABOUR CONFERENCE

PROJETS DE CONVENTION ET RECOMMANDATIONS
ADOPTÉS PAR LA CONFÉRENCE A SA SEPTIÈME SESSION

19 MAI-10 JUIN 1925

DRAFT CONVENTIONS AND RECOMMENDATIONS
ADOPTED BY THE CONFERENCE AT ITS SEVENTH SESSION

19 MAY-10 JUNE 1925

524
495

